

九州薬科学研究教育連合主催  
平成 27 年度大学院生合宿研修  
第 10 回記念

概 要 集

平成 27 年 10 月

全体写真



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ





# 合宿の風景 1





合宿の風景 2





合宿の風景 3



# 目次

はじめに .....	6
合宿研修プログラム .....	7
参加大学院生名簿 .....	9
小グループ討論成果	
Aグループ	
課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える .....	10
課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か? .....	11
Bグループ	
課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える .....	13
課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か? .....	14
Cグループ	
課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える .....	16
課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か? .....	17
Dグループ	
課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える .....	19
課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か? .....	20
Eグループ	
課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える .....	22
課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か? .....	23
優秀者賞 .....	25
参加大学院生の感想 .....	26
平成27年度大学院生合宿研修参加 講師・教員 .....	52

## 【はじめに】

医療技術の高度化が人々の健康増進に大きく貢献することは言うまでもありませんが、これは我が国の今後の経済発展のために必要な課題の一つとも言われています。従って、難治疾患を根治するための新薬の創製、並びに医薬品の適正使用や安全性の市販後追跡調査等は、これらを達成することが強く期待されています。その実現には先駆的・独創的な研究の展開とそれを基盤とする技術の向上、更にはこれらを可能にする高度職業人としての創薬研究者と薬剤師の養成が不可欠です。一方、大学における研究環境は、その発展的維持に大変な自助努力が必要な時代となっています。また、各大学には、他にはない教育メニューの構築等に象徴されるように、特色ある教育活動が要請されています。このような容易ではない状況の中で、次世代の薬学研究者を育成するには、限られた研究環境や人的資源を有効活用することが望まれます。上記の通り、各大学には独自の活動が望まれています。共通の課題も多いことから、連携によってより上質な生産性を獲得することも期待されます。このような考えから、九州地区の薬系国立大学では、独自の研究・教育活動を堅持しつつ、連携可能課題での協働による先端研究の促進と次世代人材の養成を目標に「九州薬科学研究教育連合」（以下、「連合」）を設立しています。本「連合」では、主要事業の一つとして、大学院生合宿研修を実施しており、本年度で10回目を迎えました。この合宿では、3大学（熊本大、長崎大および九州大）より選抜された少数集団（総計約30名）に対して先端的講義を与えると共に、将来課題等についての討論課題等に取り組ませております。講師陣はアカデミアの一流研究者や企業で創薬最前線に関わる研究者等が例年招聘されており、将来展望も含めた示唆や教訓に富む講義が行われております。例えば、薬学会会頭に何度かお越し頂いていることから、陣容の水準の高さがご理解頂けるかと思えます。この取り組みを通して、将来、我が国の創薬や医薬品適正使用等において指導的役割を演じる研究者・職業人の要請を目指しています。「連合」の構築や上記の合宿研修は、全国でも類のない先駆的な取り組みです。この合宿研修に参加した学生からは、毎年、高い満足度が得られており、本研修が極めて有意義な役割を果たしていることが明らかです。このような企画を通して、我が国の薬学研究の発展とこれを支える人材供給が具現化することを切に願うものです。

九州薬科学研究教育連合

代表 大戸 茂弘

（九州大学大学院 薬学研究院 研究院長・教授）

## 平成27年度大学院生合宿研修プログラム

平成27年7月17日（金）～ 7月20日（月）  
於 九州地区国立大学 九重共同研修所（大分県玖珠郡九重町）

### 7月17日（金）

13:30～14:00 受付

14:00～14:20 オリエンテーション

14:20～14:30 **内海 英雄先生** ビデオレター

「第10回九州薬科学研究教育連合主催九重合宿研修を開催するにあたり」

14:30～15:35 各グループ内で各自の研究内容の紹介（ミニプレゼン）・自己紹介

15:45～16:40 先端研究講義 1 座長 三隅将吾（熊大院薬）

甲斐広文（熊大院薬）

「薬学研究者よ、運を運びたければ足を運べ」

16:55～17:50 創薬研究講義 座長 甲斐広文（熊大院薬）

斉藤貴志（理化学研究所 脳科学総合研究センター神経蛋白制御研究チーム 副チームリーダー）

「アルツハイマー病の予防・治療・診断法の確立を目指して」

18:00～19:00 夕食

19:30～19:45 スモールグループ・ディスカッション（SGD）に関する説明

19:45～21:00 SGD 1

討論課題 1：「人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える」

現状認識、問題点の抽出と整理、改善策のグループ案の作成

21:00～22:30 討論会（研修所）

### 7月18日（土）

7:30～ 8:30 朝食

9:00～10:50 SGD 1（継続）（資料は10:40までに提出）

10:55～11:50 討論課題 1 について、グループ発表および全体討論 SGD 1

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 SGD 2

討論課題 2：「薬学研究者が社会貢献できることは何か？」

15:15～16:10 先端研究講義 2 座長 斉藤貴志（理研）

大戸茂弘（九大院薬）

「分子時計を基盤にした創薬・育薬」

16:25～17:20 教育講義 座長 甲斐広文（熊大院薬）

高井一也（国立研究開発法人産業技術総合研究所 ベンチャー開発・技術移転センター長）

「革新的な研究成果の事業化のために—知財ライセンスとベンチャー創業—」

17:25～17:50 記念写真撮影 1（全体撮影）

17:50～18:30 SGD 2 「討論課題 2：継続」

19:15～21:00 交流会（筋湯観光ホテル九重悠々亭）



7月19日(日)

7:30~8:30 朝食、掃除

8:40~9:35 企業戦略講義1 座長 黒田直敬(長大学院医歯薬)

松下正行(中外製薬 創薬化学研究部)

「分子標的抗がん剤の開発研究」

9:45~10:35 企業戦略講義2 座長 三隅将吾(熊大院薬)

野村伸彦(富山化学工業株式会社総合研究所第三研究部 部長)

「日本初の創薬を目指して-日本の創薬の歴史と富山化学の創薬を中心に-(仮題)」

10:45~11:40 企業戦略講義3 座長 王子田彰夫(九大院薬)

木野山功(アステラス製薬)

「患者の明日を変える創薬 ~末梢選択的新規アンドロゲン受容体拮抗剤の合成研究~」

11:40~11:50 記念撮影2(班ごと)

12:00~14:00 昼食、自由時間

14:00~16:00 SGD 2 「討論課題2:継続」(資料は15:45までに提出)

16:00~17:00 討論課題2について、グループ発表および全体討論

17:15~17:45 SGD 3 討論課題1および2に対するグループとしての修正案作成

17:45~18:30 夕食

18:45~21:00 SGD 3 討論課題1および2に対するグループとしての修正案作成

21:00~22:30 討論会(研修所)

7月20日(月)

7:30~8:30 朝食

9:00~9:55 先端研究講義3 座長 三隅将吾(熊大院薬)

黒田直敬(長大学院医歯薬)

「臨床化学への薬学的アプローチ」

10:05~11:20 SGD 3 討論課題2の修正案についてグループ発表

11:20~11:55 全体討論、連絡

総括 甲斐広文(熊大院薬)

12:00~12:30 修了式、記念写真撮影3、解散

## 【参加大学院生 名簿】

A(10)タスクフォース教員:武田(九大)、稲住(熊大)	
伊豆本 和香	分子衛生薬学分野
才津 裕子	創薬育薬産官学連携分野
池口 友佳	生命分析化学
徳益 圭祐	環境調和創薬化学分野
福田 高志	生物有機合成化学分野
曾根 将平	環境分子保健学分野
甲斐 宏祐	分子薬化学
中川 祐良	薬物送達学
突田 広太郎	医薬品合成化学
八田 大典	ゲノム創薬学

B(10)タスクフォース教員:淵上(長大)、臼井(九大)	
栗田 歩実	分子衛生薬学分野
藤川 春花	遺伝子機能応用学分野
大下 奈緒子	製剤設計学分野
米寄 凌平	環境調和創薬化学分野
小澤 雄介	生体分析化学分野
雨宮 舜	生命分析化学
久保山 征宣	分子薬化学
西澤 遥	薬物送達学
中島 将	医薬品合成化学
森 亮太郎	ゲノム創薬学

C(10)タスクフォース教員:小谷(熊大)、田畑(九大)	
笹垣 みどり	薬物分子設計学分野
嘉村 美里	遺伝子機能応用学分野
西山 怜奈	製剤設計学分野
上野 祐平	薬物分子設計学分野
初山 勇次	生体分析化学分野
上村 立記	微生物薬学
岸本 幸一朗	薬学生化学分野
薬師寺 悠太	薬物送達学
出田 智明	薬用植物学
吉崎 涼平	ゲノム創薬学

D(10)タスクフォース教員:齋藤(長大)、関(熊大)、倉内(熊大)	
宮崎 芽依	生物有機合成化学分野
山田 芽衣	環境分子保健学分野
橋村 沙也加	微生物薬学
松崎 拓也	薬物分子設計学分野
佐藤 祐	創薬育薬産官学連携分野
星山 稔貴	微生物薬学
阿南 純平	薬物活性学
日高 基貴	天然物化学
堀 祐真	ゲノム創薬学
小川 昂輝	医薬品情報学

E(9)タスクフォース教員:小橋川(熊大)、岸本(熊大)	
三浦 千鶴	生体分析化学分野
森田 和美	生命分析化学
高崎 隼颯	生物有機合成化学分野
連川 雄	遺伝子機能応用学分野
芦刈 康彦	分子薬化学
佐藤 正寛	薬物活性学
大山 達也	医薬品合成化学
松尾 和哉	ゲノム創薬学
菅 忠明	医薬品情報学

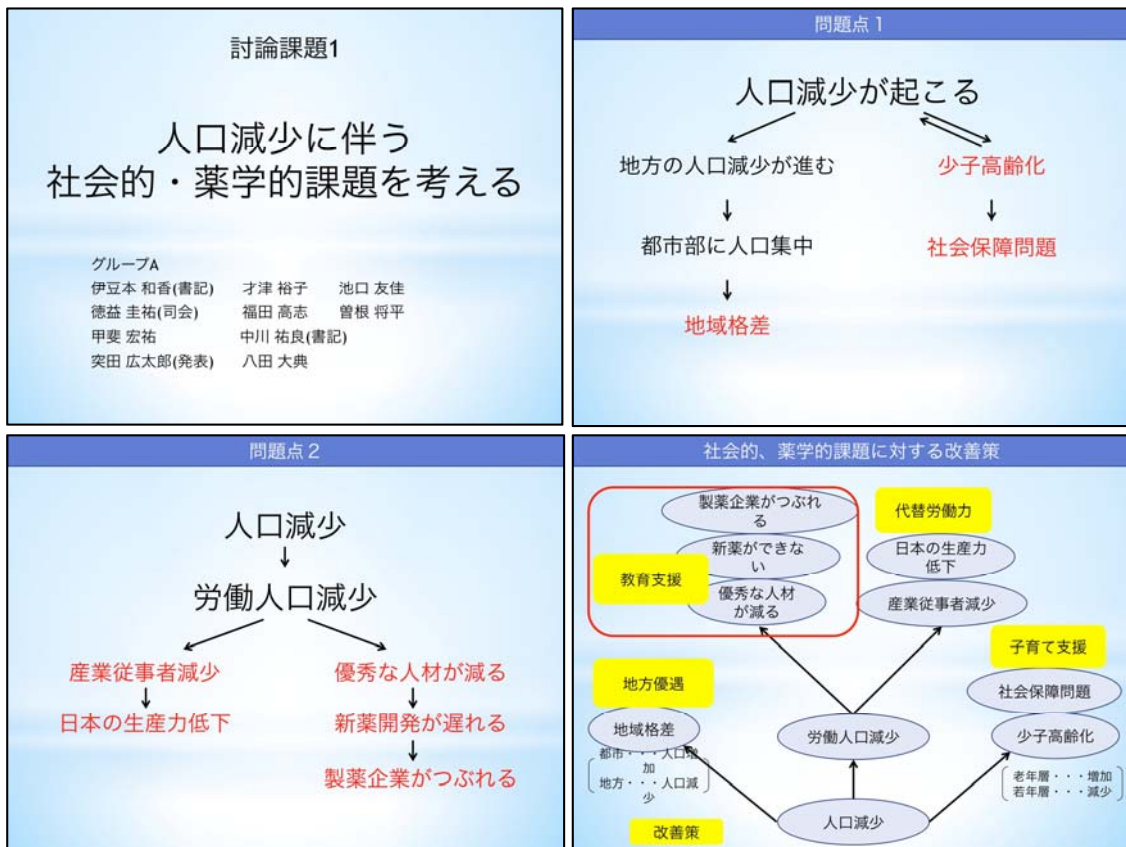
## 【小人数グループ討論 成果】\*

\*この討論成果は、各グループの学生が主体的にまとめたものです。

### A グループ



#### 課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える





教育支援

**課題**

製薬企業がつぶれる → 薬学全体の停滞  
 新薬ができない  
 優秀な人材が減る

**改善策**

- ・奨学金
- ・高校無料化
- ・国外の優秀な人材を呼ぶ
- ・より良い教育を受けれる場を増やす
- ・指導者の向上

課題 2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か？

討論課題2

## 薬学研究者が社会貢献できること

Aグループ 伊豆本 和香 才津 裕子 池口 友佳(リーダー)  
 徳益 圭祐 福田 高志(発表) 曾根 将平  
 甲斐 宏祐(書記) 中川 祐良 突田 広太郎  
 八田 大典

## 薬学研究者とは

薬学全体を進歩させてくれる人材

## 薬学研究者が社会貢献できること

現状

- 薬学研究者(薬学研究内容)について知られていない
- 研究の楽しさ、やりがい知られていない

## 薬学研究者が社会貢献できること

薬学全体の進歩につながる

## 薬学研究者がメディアを通して伝えたいこと

- 患者さんに難病治療への試みを伝える
- 一般の方に新薬開発について
- 学生に仕事内容を伝える
- 子供たちに科学の楽しさを伝える

↓

- ✓患者さんに勇気を与えられる
- ✓薬学に興味を持つ人が増える

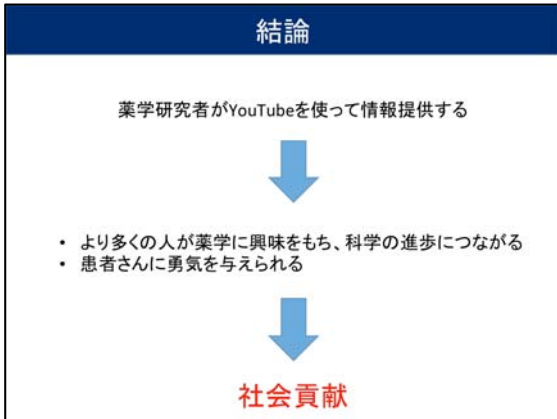
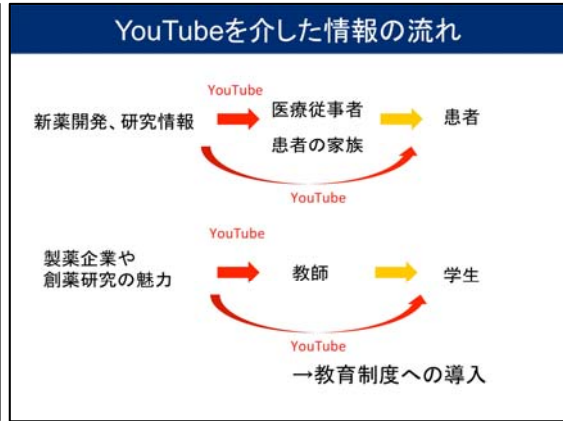
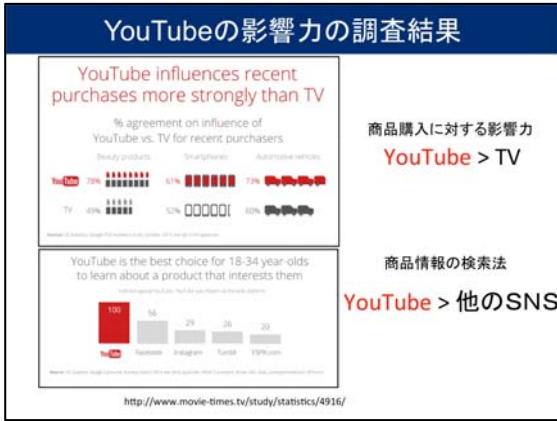
## YouTubeの魅力

数あるメディアの中でも

- 世界中に普及！！
- 手軽で無料！！
- 誰でも使える！！！！

↓

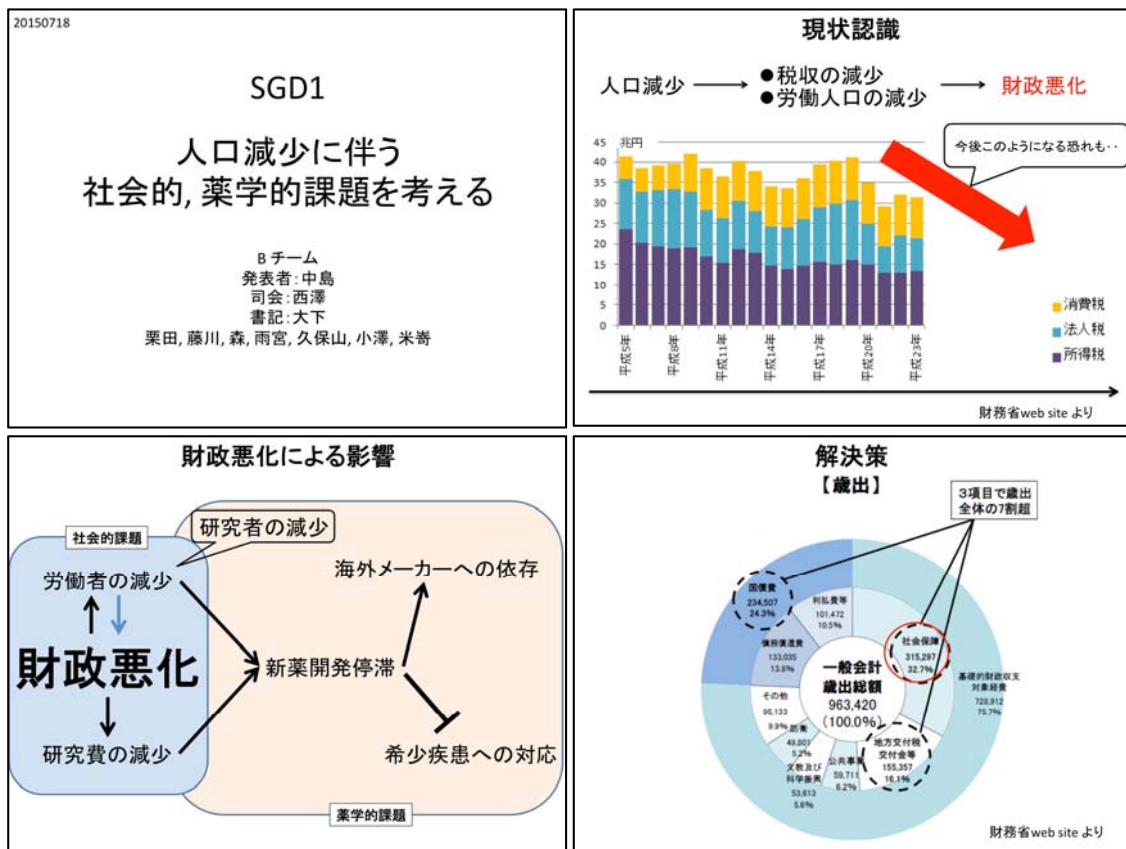
多くの人に影響を与えるメディア



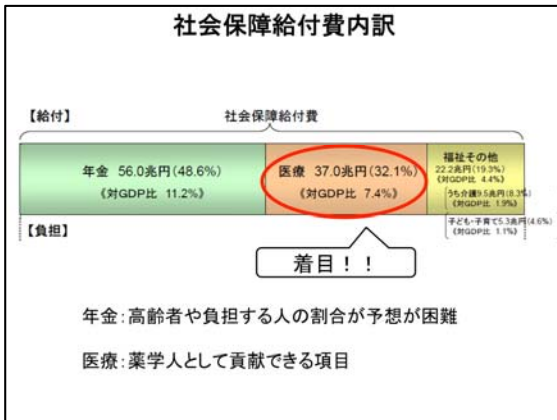
## B グループ



### 課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える








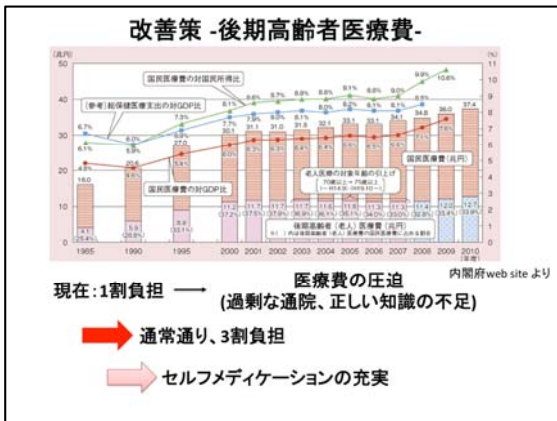
### 改善策

医療費の削減

→ セルフメディケーションの推進

- 一般の人に薬の知識を提供する
- 健康診断に定期的に行くことを推進する  
例; 熊本大学医学部付属病院 検査カフェ など
- 節薬バックの推奨



課題 2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か?

## 薬学研究者が社会貢献できることは何か?

B チーム  
○栗田, 中島, 藤川, 大下, 森, 西澤,  
雨宮, 久保山, 小澤, 米寄

新薬

希少疾患に対する新薬  
OTC薬の開発  
医療機器の開発

コスト削減

合成法の工夫  
触媒の開発・利用  
ジェネリック

有用性の向上  
DDS

□ 一般市民に対する社会貢献  
薬学知識のシェアリング  
一般市民に対する薬学研究者による講演会



従来

→



Human



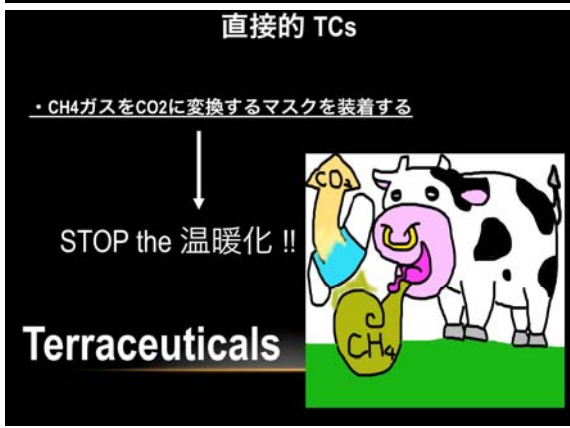
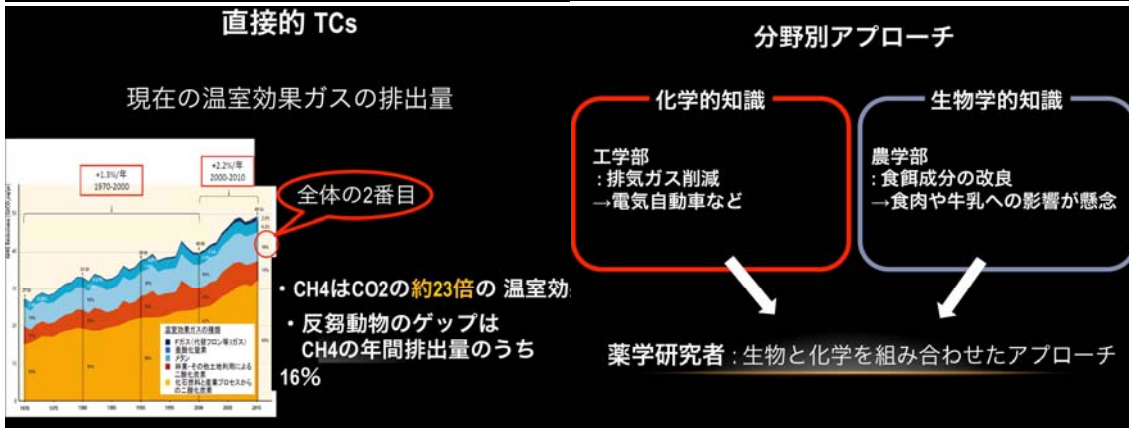
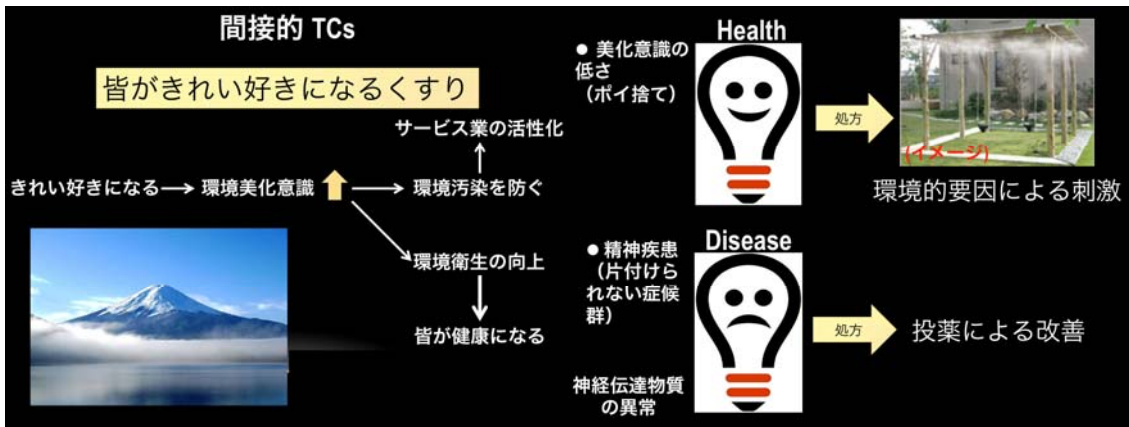
Nature



Animals



Terra-Ceuticals



# C グループ



## 課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える

C グループ

人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える

### 新たな健康大国日本

メンバー: 笹垣 嘉村(司会) 西山 上野 初山 上村 岸本(発表者) 薬師寺 出田 吉崎(書記)

#### 将来予測される人口減少による影響

⇒医療を中心軸とした経済の再復興ができる方法はないだろうか？

#### 現在の社会保障費は「高齢者」にフォーカスしている

⇒労働者人口の減少が止まらない一方で、年金・医療費といった主に高齢者へ回っている社会保障費は増える。

#### 現在も健康大国日本とされているが...

年金制度、莫大な医療費をかけているから！

新たな健康大国日本  
長く健康に暮らせる国を目指す



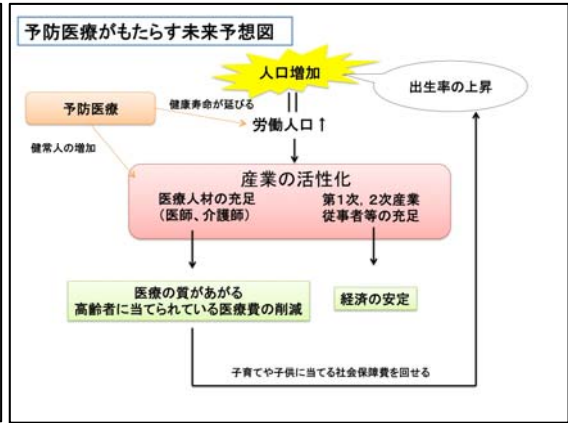
**病気のかからない「健康に暮らせる国」を作る**

**医療 予防医療の最先端へ**

- ・ 現在の日本の衛生基準は高い水準にある
- ・ ワクチン・サプリメントなどによる予防医療に特化していく
  - ・ 生産も同時に行うことで他の産業にも寄与できる
- ・ 技術的若返り・老化防止による健康寿命が延びる

**法整備**

- ・ 予防接種などを全額補償し、義務付ける
- ・ かつて老人にフォーカスを行っていた社会保障費などを子育て世代や子供のほうに向けていく制度を作ることが可能



**課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か?**

SGD3

薬学研究者が社会貢献できることは何か?

**僕らの可能性は無限大**

○グループ  
菅垣(書記), 嘉村, 西山, 上野(司会), 初山, 上村(発表), 岸本, 薬師寺, 出田, 吉崎(スライド)

**Q. 薬学研究者とは?**

**薬学部で学べる学問**

Organic Chemistry (有機化学), Physical Chemistry (物理化学), Analytical Chemistry (分析化学), Medical Ethics (医療倫理学), Radiochemistry (放射化学), and Hygiene Chemistry (衛生化学) are all connected to a central point: **幅広い分野の学問を身につけられる!** (You can learn a wide range of disciplines!).

**A. スペシャリストである前にゼネラリスト**

**現在の薬学研究者の活躍現場**

- 医療関係**
  - ・ 新薬の開発
  - ・ 診断・早期発見キットの開発
- 教育 (広報)**
  - ・ 本、CM、タレント、インターネットなどで薬の知識を広める
  - ・ 初等教育、中等教育に授業として取り入れる
- 生活・治安**
  - ・ 衛生管理 (食品・農業・環境)
  - ・ 化粧品開発
  - ・ 科捜研、麻薬取締官

薬学研究者の可能性は現在の活躍の場にとどまらない!

**未来の薬学研究者**

**1 + X = ∞**

薬学 (1) + 他分野 (X) = 活躍の場 (∞)

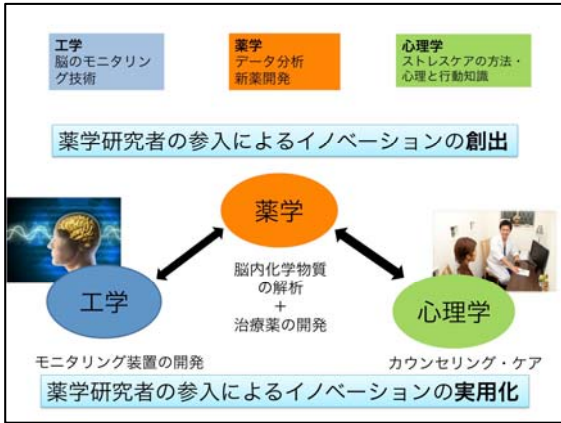
INFINITE

**未来の薬学研究者にできること**

The tree diagram shows various future roles:
 

- 再生医療 (自己再生)** (Regenerative medicine)
- 能力の限界突破 (スーパー自衛隊)** (Breaking the limits of ability)
- セルフケアサポート (健康状態の24時間モニタリング)** (Self-care support)
- ストレス社会に生きる人々のケア** (Care for people living in a stress society)

 The roots of the tree are labeled **薬学研究者** (Pharmacologists). The branches are labeled with various fields: **工学** (Engineering), **心理学** (Psychology), **経済学** (Economics), **社会学** (Sociology), **法学** (Law), and **医学** (Medicine). The central text is **薬学研究者が学ぶ学問** (Subjects that pharmacologists study).



薬学研究者の可能性は現在の活躍の場にとまらない！

未来の薬学研究者

1 + X = ∞

薬学 他分野 活躍の場

INFINITE

イノベーションの創出と実用化

これで発表を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。

9

## D グループ



### 課題1: 人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える

#### 討論課題1 人口減少に伴う社会的・薬学的 課題を考える

グループD  
発表: 日高, 司会: 山田, 書記: 佐藤, 星山  
宮崎, 橋村, 松崎, 阿南, 堀, 小川

#### 問題点

#### 考察①

医療関係者

臨床データ不足

サービス低下

企業の衰退

- 理由  
臨床試験を行える患者数が国内で減少
- 解決策  
臨床試験を海外で行う  
→日本人と外国人では体内動態が異なるため、体内動態の差を埋めるさらなる試験の考案や法整備が必要

#### 考察②

医療関係者

臨床データ不足


サービス低下

企業の衰退

- 理由  
医療従事者の減少に伴う地方での医療サービスの低下
- 解決策  
遠隔診断・治療を充実させる  
→skypeなどを用いて、異なる地域にいる医師、薬剤師、患者間のコミュニケーションをとれるようにする
- 長期に保存できる薬剤開発  
→都会から地方への薬の輸送が必要なくなる
- Physical medicine  
→消耗品ではない医療機器の開発



### 考察③



**医療関係者**

- 臨床データ不足
- サービス低下
- 企業の衰退

- 理由  
人件費の高騰・マンパワー不足
- 解決策  
新たな市場の開発  
→動物向けの薬剤開発  
→人口が増加している国で起こっている問題を解決するための薬剤開発
- 生産工程の単純化の促進

### 結論

人口減少に伴う社会的・薬学的課題は

↓

医療関係者における  
**臨床データ不足、医療サービスの低下、企業の衰退**があげられる

↓

解決策として  
**海外とつながりを強める、機械化の発展、新たなニーズへの対応が必要**

## 課題2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か?

### SGD3

#### 薬学研究者ができる社会貢献について

D班: 発表者: 堀  
書記: 宮崎  
司会進行: 阿南  
小川 橋村 松崎 佐藤 星山 山田 日高

### 薬学研究者の定義

ヒトの健康を維持・向上させるために、幅広い視点・知識から、薬や技術を創り出せる研究者のことである。

↓

薬学研究者が社会貢献できる一例として...

### 花粉症

多くの国民が花粉症を患っている

↓

花粉症にかかることで、集中力が低下

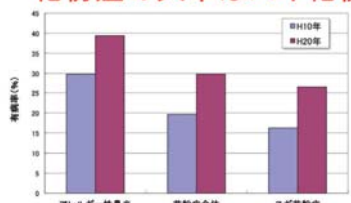
↓

労働効率が減少して、景気が悪化!!

#### 花粉症問題について～背景～

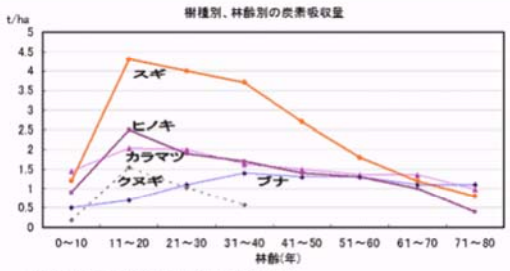
- 花粉症全体の有病率は29.8%
- スギ花粉症の有病率は26.5%

→花粉症の大半はスギ花粉によるもの



鼻アレルギー診療ガイドライン 2013年版より

#### 花粉症問題について～背景～



(出典)長野県地域森林計画主要樹種林分材種表に基づいて

### 具体的なアプローチ

- ① 遺伝学的観点
- ② 天然物化学的観点
- ③ 生物学的観点

### ① 遺伝子制御によるアプローチ

**問題点**  
 全ての杉を切ることは様々な観点 (労力, 金銭, 権利等) で難しい



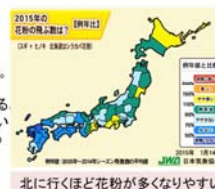
花粉症の原因であるアレルギータンパク質 (ex. Cryj1) が産生されないようにすればよい!!  
 → 遺伝子レベルでタンパク質発現制御を行う



### ② 植生の観点から見たスギ花粉抑制

#### スギの特徴

植物の産生物質は環境要因 (日照, 気温など) によって組成や変成分が変化することが知られています。 (紅葉など)  
 スギは基本的に一日の平均気温が10度前後になる2月から4月に多くの花粉を放出することが知られています。また九州など比較的暖かい地域では飛散する花粉量も少なくなることが報告されています。



#### 天然物化学的アプローチ

##### Physical Medicineの応用が可能

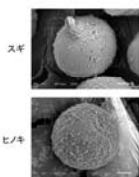
→ 気温の認識部位をみつけ花がつかないようにコントロールする  
 → 特定した部位マイクロチップサイズや街頭状でヒーターなどをつける。(太陽光などでEは補充)  
 ・共生する植物が影響を与えていないか調査

### ③ 空中のスギ花粉への抗体を作る

体内ではアレルゲンに対して抗体を産生してアレルゲンを補足することで対抗する

↓  
 空中の花粉に対する抗体を作って空中に散布して補足する

- ・個人でも都市全体でも使用可能
- ・植物そのものの生態系を壊さない
- ・花粉を認識する部位だけ入れ替えれば他の微粒子にも対応可能



#### 方法案

- ・花粉の形状特異的な物質を開発する
- ・花粉粒子の表面に特異的な分子に結合する物質を開発する
- ↓
- ・林や道路に散布できるミスト状にする
- ・ポータブルや部屋置きタイプにして個人で使用可能にする

<http://www.riho.go.jp/rihogin/2009/3.html>

# Eグループ



課題1:人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える

### 薬学人として人口減少に伴う課題に どう向き合うか

Eグループ  
発表者:連川  
司会:大山  
書記:三浦  
森田・高崎・芦刈・佐藤・松尾・菅

### 人口減少に伴う社会的・薬学的課題

### 社会的課題と打開策

労働人口の減少  
税収の減少

**打開策**  
**法律の改正**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の見直し (年金制度・医療費等)</li> <li>・税率の見直し (税の累進課税化等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用の見直し (過疎地域の有効利用等)</li> <li>・ロボット社会の実現 (医療分野におけるロボットの参入・法整備)</li> </ul>
---	--

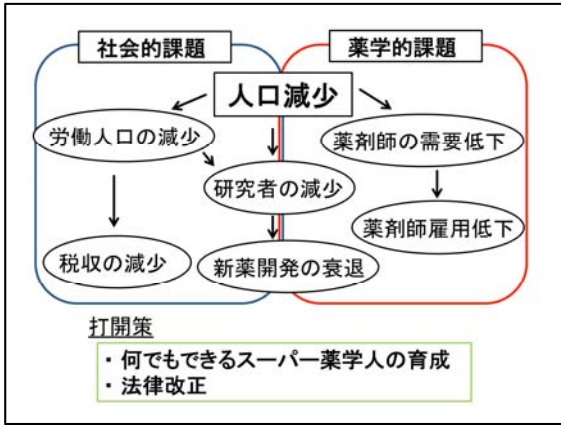
ロボットと人間の分業  
(ロボット:単純作業 人間:直感的思考を要する作業)

### 薬学的課題と打開策

**調剤だけでも、研究だけでも半人前！**

<p style="text-align: center;"><b>薬剤師のシステム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師だけの仕事は何か?</li> <li>・能動的に (医師と患者を診断)</li> <li>・薬剤師の仕事の幅を広げる (かかりつけ薬剤師等)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>大学の教育システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野の壁を無くす</li> <li>・研究もできる薬剤師育成</li> <li>・企業でできない研究</li> <li>・英語教育の強化</li> </ul>
---	---

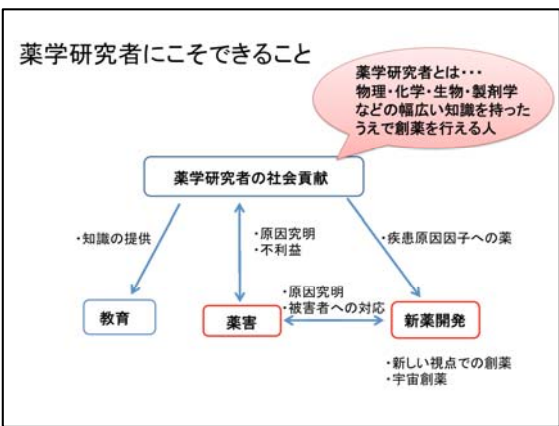




課題 2: 薬学研究者が社会貢献できることは何か？

### 薬学研究者が社会に貢献できることは

E班  
 発表者: 菅 書記: 森田 司会: 佐藤  
 三浦、高崎、連川、芦刈、大山、松尾



### 皆が安心して薬を使える世界

薬の服用におけるリスクとは？  
 「薬害」  
 子宮頸がん予防ワクチン接種による痛み、記憶障害等

薬害を未然に防ぐためには？ 起きてしまった時には？

- ✓ 副作用・相互作用の確実な把握
- ✓ 原因の解明
- ✓ 臨床試験・承認審査の質の向上
- ✓ 情報の迅速な公開
- ✓ 患者への認識の促進
- ✓ 被害者への補償・対応

### 新しい視点での社会貢献

従来からの創薬視点 (肺癌、COPD、などの疾患を治す) ← タバコ → 新しい考え方 (喫煙をやめられるようにする)

このような観点で他の薬も創れるのでは??

- 肥満 → 食欲を抑える薬
- パチンコ → 行きたくなくなる薬
- 野菜嫌い → 野菜のえぐみ、苦みを消す

新しい創薬により我々の生活の質を上げるとともに、間接的に疾患リスクも未然に防ぐことにつながるはず

### 宇宙創薬

宇宙という環境 ⇒ 新たな創薬の可能性

宇宙創薬 ⇒ ・宇宙空間を利用した創薬  
 ・宇宙で使う薬

### ★宇宙空間を利用した創薬の現状

テイシェンヌ型筋ジストロフィー・・・男児1/3500人に発症  
 原因である**プロスタグランジン合成酵素**が地上でうまく**結晶化**しないため**解析**できない！！

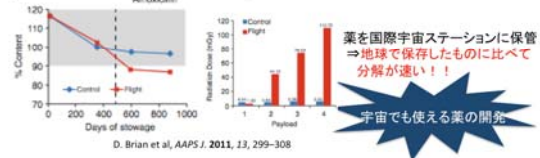
地上 → 宇宙 (均一な結晶) → 構造解析のデータをもとに阻害剤を開発

問題点・解決策  
 コストがかかる ⇒ 飛行機での無重力空間・北海道での低重力実験

宇宙を利用した創薬が社会貢献の手段となる！

これから宇宙開発・旅行の実現には何が必要か？

★宇宙空間における薬の問題



宇宙空間での疾患・地球へ帰還した時の問題

- ・無重力による筋力低下・骨粗鬆症
- ・体内動態の変化？

- ・宇宙で使える薬
  - ・宇宙特有の疾患に対する薬
- の開発が必要である！

ご清聴ありがとうございました。

## 【優秀者賞】\*\*



\*\*小グループ討論での意見の取りまとめにおける貢献度、成果発表における発表内容・態度、質疑応答内容および合宿への貢献度を総合的に評価して決定した。

### 優秀者一覧

氏名	大学名	分野名
栗田 歩実	九州大学	分子衛生薬学分野
連川 雄	熊本大学	遺伝子機能応用学分野
嘉村 美里	熊本大学	遺伝子機能応用学分野
山田 芽衣	熊本大学	環境分子保健学分野
芦刈 康彦	熊本大学	分子薬化学分野
岸本 幸一郎	熊本大学	薬学生化学分野
大山 達也	長崎大学	医薬品合成化学分野
中島 将	長崎大学	医薬品合成化学分野
出田 智明	長崎大学	薬用植物学分野
八田 大典	長崎大学	ゲノム創薬学分野

#### 審査委員

##### 九大院・薬

大戸茂弘 王子田彰夫 田畑栄一 臼井 一晃 武田知起

##### 熊大院・薬

甲斐広文 有馬英俊 三隅将吾 首藤 剛 関 貴弘 小橋川敬博  
小谷俊介 副田二三夫 倉内祐樹 稲住知明 岸本直樹

##### 長大院・薬

黒田直敬 田中 隆 岩田修永 淵上剛志 齋藤義紀



## 参加大学院生の感想

◇九州大学◇

#1

今回、九重合宿研修に参加させて頂き、ありがとうございました。他大の学生や先生方、普段お話しする機会のない企業の方と交流することが出来、大変貴重で内容の濃い研修でした。今回の研修では、多くの学生が全体の間やスモールグループディスカッションにおいて積極的に質問し、意見を述べていて圧倒させられました。私は人前で質問をすることが得意ではなく、研修中、積極的に質問や意見を述べる事が出来ず、少し後悔しています。将来働いていく中で、自分の疑問に思ったことを話し相手に示すことは重要だと思うので、積極性を身につけたいと思いました。また、スモールグループディスカッションでは皆の意見を一つにまとめることの難しさを感じました。リーダーを中心に皆で意見を交わし、最終的には自分たちが納得する形にできたので良かったです。また、全体の間でのプレゼンやそれに対する質疑応答が上手な人たちが多くて驚きました。聞き手が理解しやすいように論理立てて話していて、とても勉強になりました。懇親会では企業の方々とお話しすることができ、就職したいというモチベーションがさらにアップすることが出来ました。企業の方みたいに自分の研究に誇りを持ち、創薬に携わりたいと強く思いました。他大の学生とは、飲み会の時など気軽に話せて仲良くなれて良かったです。色々な考えを持つ人に出会えて、この研修に参加して良かったなと感じました。就活時期などにまた会えたらいいです。最後になりましたが、今回このような素晴らしい機会を与えて下さった先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。今後、この研修で学んだことを進路や研究に活かしていきたいです。

#2

この研修を通して最も良かったことは、先生方の講演が多く聞けたことだと思う。普段は自分の研究に関わることを中心に文献を読んだり講演を聞くことが多いが、今回のように自分の研究とは違う分野の先生や、あまり聞くことのできない企業の方のお話を聞けたことは非常に有意義な経験となった。特に企業の方のお話には興味深い点が多く、よい刺激となった。先生方の持論を全て受け入れる気はないが、こういう考え方もある、といったことをいくつか知れたことも良かった。

また、講演以外の時間ではタスクの先生方とお話しする機会が多くあり、普段話すことのない先生ともお話しすることができ新鮮だった。今後、今回お世話になった先生方にはまたお会いする機会もあると思うので、それが楽しみになった。

#3

今回合宿研修に参加させていただき、私は2つの収穫がありました。

1 つ目は、企業、他大学の先生方との交流ができたことです。飲み会の席でもお話できたため、普段の講義では聞けないような先生方の考え方や最新の研究の話をしていただき、自分の研究に対する考え方に新しい視点が加えられたと思います。また、先生方が何気なく話して下さった内容で、次の日のSGDに活かされたものがあり、有意義な時間となりました。先生方も私たちの拙い質問に快く答えてくださり、非常に感謝しています。

2 つ目は、グループディスカッションの楽しさと難しさです。合宿初日はみんな手探り状態でディスカッションが始まり、とりあえず意見は出すもののそれをどうまとめていくべきかが分かっていなかったように思います。しかし討論を重ねるにつれ、たくさんの意見の中でより新規性の高いものを選び、それを軸に具体案の提示や裏付けを行うというスタイルが作られていきました。短い時間の中で討論進行のスタイルが確立できたのも、班のみんなの協調性、積極性があったからだと思います。メンバーに恵まれ非常に楽しいSGDでした。また、1人1人に得意な役割があって、データを見つけてくる人、アイディアが次々浮かぶ人、発表が上手な人などいろいろなタ

イブの人と出会えました。私はまとめ役が多かったのですが、別のタイプの人たちから学ぶことも多く、勉強になりました。一方で、内輪で批判意見を提示することの難しさを感じました。自分たちのアイデアをより高めていく上で、あえて内輪では厳しい意見が出て良かったかと思えます。みんな協調性のある人達だったため、あまり突っ込んだ批判なしに発表に臨んだ部分があり、やはりそこは質疑の際に迫りすぎてしまいました。今回のSGDで話し合いの基本は学ぶことができましたが、同時に批判意見をグループ内で出し、かつ険悪な雰囲気を作らない進行・まとめとはどんなものだろうという課題も得られました。今回の研修で得られた課題について、今後の講義や就活のディスカッションで生かしていけるよう頑張ろうと思います。今回の合宿研修を企画・運営してくださった先生方、熊本大学の学生のみなさん、ありがとうございました。

#### #4

今回の九重での合宿研修の4日間は、私が考えていたよりもはるかに楽しく、また充実したものでした。合宿研修が始まるまでは、連休がつぶれてしまし過密なスケジュールで大変だろうという気持ちが強かったです。また積極性の高いであろう他大学の学生に混ざりスモールディスカッションをすることに対する不安もありました。

合宿が始まって最初感じたのは、予想通り、講義の質問の場での他大学の学生の積極性でした。講義では私のあまり知らない分野の話が多く、どのような質問をすればいいのかと困惑しましたが、同時に普段触れることの少ない他分野の話を聞けて視野が広がったようにも感じることができました。スモールグループディスカッションでは、それぞれ異なる意見を持つ学生に限られた時間の中で意見をまとめなければならず、これまでそのような機会の少なかった私には新鮮でした。特に印象に残ったのは、他の学生に自分の研究について説明する難しさでした。分野の異なる研究内容を理解するのは難しいですが、それ以上に自分の研究について理解してもらうことの難しさを痛感しました。

このように、研修の一つ一つの内容が大きな刺激となり、有意義なものでした。この合宿で得られた積極性や自信、他大学の友人をこれからも大切にしていきたいと思います。

#### #5

今回の九重合宿に参加して、自分の積極性や主体性など、今の自分に足りないものを気づくことができ、非常に有意義に感じた。普段の日常生活では、他大学の学生と交流を持つ機会はなかなか無く、薬学という同じ分野に所属する他大学の学生がどのような考えを持ち、逆に自分の大学を客観的に見た時にどのように見えるのかということ学ぶことができた。研究室に配属されてから、自分の研究に関連した専門知識は日に日に増えていっていることは感じたが、研究のこと以外に関してはそれほど積極的に学んだり、参加しようという気持ちがありませんでした。しかし、今回のグループディスカッションを通して、与えられたテーマについて班内で意見を出し合い、まとめていくというこれまでほとんど経験しなかった貴重な時間を過ごす中で、自分から積極的に意見を伝えることに努めた。その結果、限られた時間の中で、問題点や解決策を班内でうまくまとめることを達成した。

3泊4日の研修期間は長く、スケジュールが詰まっているため、研修が終わった時に達成感を感じることができた。それと同時に、今回の合宿で学んだことを今後の研究活動に生かしていかなければいけないと感じた。

#### #6

私は九州薬科学研究教育連合主催合宿研修に参加し本当によかったと今強く思っています。真夏で3泊4日のタイトなスケジュールは身体的・精神的にきつと感じる時も正直に言うことができましたが、普段の研究生活に戻った今、合宿での私自身の成長を実感しています。熊大院薬の甲斐先生の「薬学研究者よ、運を運びたければ足を運べ」という御講義から合宿はス

タートし、他にも理化学研究所の斉藤先生や九大院薬の大戸先生、中外製薬の松下先生等、諸先生方の貴重な御講義を受講させて頂きました。先生方の御講義は各分野における最先端の研究でしたが、私たち学生にも分かりやすく、最後まで興味を持って受講させて頂きました。また、それぞれの先生方が抱かれている研究に対する哲学についても触れることができ大変感銘を受けました。これからの研究生生活にぜひ生かしていきたいと思います。

この合宿プログラムで最も私が成長することが出来た場面はスモールグループディスカッション (SGD) であると思います。討論課題として「人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える」「薬学研究者が社会貢献できることは何か」という二つの課題が与えられ、長崎大学・熊本大学・九州大学の3大学から薬学学生10名が集まりそれぞれの課題についてKJ法を用いて話し合いをしました。これまで私は消極的な性格で、議論などではあまり積極的に参加していませんでした。実際に合宿初日のSGDではあまり積極的に自分の意見を言えていなかったと思います。しかし他大学の学生が積極的に課題に対して意見を出しており、10人というまさしく少人数での議論は一人ひとりの意見によってより深い議論につながるのだと思い、二日目以降のSGDでは積極的に発言するようになりました。また討論課題について、これまで私は“薬学研究者や社会に与える影響”について考えたことが無かったので、これからの社会を創造していく私たちが人口減少など社会全体の課題に対しどのように影響を与えるのか、どのような可能性があるのか、深く考えることが出来、大変貴重な体験だったと思います。

これからの社会を担う若手薬学研究者の一員として、この4日間の合宿プログラムで得た様々な経験をこれからの研究生生活に生かしていきたいと強く思います。

4日間大変お世話になりました。

ありがとうございました。

## #7

今回の合宿を通して、就活セミナーなどで聞く「九州大学はほかの大学と比較して積極性に欠ける」ということを実感した。自分も周りの意見を伺ってばかりいたので、周りに合わせる協調性だけではなく、グループの中心になっていく力を持てるよう努力をしていきたいと感じた。グループの中心になっていく、引っ張っていく人材というものは自分の意見を押し出してそれを通してだけでなく、周りの意見を聞いて参考にして、共同研究者と共に実行していける人物だと私は考えた。周りの顔色や意見を伺って待っているだけではいけないし、自分の意見ばかりを主張しても意味がない。

短い期間で2回もSGDを行って、いかにすばやく全員の意見をだし、それをまとめプレゼンテーションを作れるかという切迫した状況では、自分の意見をその場で言おうとしない人間は存在意義が薄いと感じた。短時間で話し合いの結果をまとめようとした場合、普段よりも「沈黙している周囲の人に意見を聞く」という行動を行わなくなってしまうので、自分から発言しないと自分の意見は討論結果に反映されないのだとわかった。企業に入っても短期間で結果を出すことを求められるので、確かに就職活動中のグループディスカッション等で自分の意見をすぐに言えない人間は採用されにくいのだと感じた。企業に入るにしても、アカデミックな道を進むにしても自分の意見を持ちそれを主張する、というのは研究者になる上で大前提の条件だと感じた。私は自分の意見をグループ内で積極的に述べるということができていなかったため、今後自分の意見を進んで述べていけるようにしていきたいと感じた。

また、今回の合宿の中で多数の研究者や様々な形で薬学に関わる方の講演を聞いて、薬学研究者として将来自分たちができることを考えさせられた。現在開発が進んでいる医薬品や技術、そして現在の医薬品業界の状況、研究者として生きていくライフプランなど、様々な方面から自分の将来を考えることができた。さらに、医薬品の開発においてどのようなアプローチで問題を解決していくかというお話を多く聞くことができ、参考になった。

最後に、この合宿を通して、自分の将来目指す姿、そして今の自分に足りないものを認識することができたので、この合宿に参加できてよかったと感じた。また、このような機会がない限り



知り合うことがなかったであろう熊本大学、長崎大学の創薬科学専攻のみなさんに会い意見交換・交流することができたので、有意義な合宿生活を送れたと思う。興味深い講演を聞くことができるというだけでなく、アカデミックか企業かという進路選択の前に自分の弱点や改善すべき点を見直すことができる非常に貴重な行事だと思ったので、今後もぜひこの大学院生合宿研修プログラムを続けて行ってほしいと感じた。

#### #8

3泊4日の合宿で、最初は不安で仕方なかったが、始まってみると長いようであつという間だった。かなり密度が濃い3泊4日であった。

合宿でまず驚いたのが、熊大と長大の人の積極性である。講演会や討論会で毎回手を挙げて質問する人もいて、本当にすごいなと思った。一方、私は質問したり意見を述べたりすることが苦手である。ましてや大勢の中でなんて無理だと思っていた。義務だったとはいえ、一回でも質問できたのは自分の中では進歩だと思う。

SGDでは4日間を通してあまり発言できず、グループ内で活発に意見が交わされているのをただ聞いている状態になっていることが多かった。自分の至らなさを痛感した。生きていく上で積極性を求められる場面というのは必ずあると思うので、普段から意識して積極性を身につけていこうと思った。

講演会では様々な分野の先生たちの講義を聞くことが出来てよかった。研究内容だけではなく、考え方であるなど薬学に携わる方のいろいろな話を聞くことができて良かった。自分の進路を考える上でも参考になったと思う。

また、他大の人達との交流は楽しく、良い刺激になった。普通に過ごしていたら、他大の薬学部生と交流する機会はほとんどないため、このような機会は貴重であったと思う。

今回の合宿は自分の至らない点を再確認できたとともに、他大の薬学生との交流、先生たちの講義などとても有意義なものであり、参加して良かったと思う。この合宿から得たことを今後活かしていきたいと思う。

#### #9

私は研究室の関係上、強制参加という形で今回この九重合宿研修に参加させていただきました。そのため初めはこの研修に全くと言っていいほど乗り気ではありませんでした。研修所に到着するとすぐに10人1組のグループに分かれ、自己紹介とグループディスカッションが始まったのですが、この時早くも驚くことがありました。それは私がグループの部屋に行くと熊大生のメンバーがすぐに部屋の机と椅子を動かしてディスカッションを行いやすい状態にしていたことです。この行動を見て、私は熊大の人は意識が違う、すごいなと思いました。しかし、熊大の人にとってはその行動は普通のことだったようです。その後のグループディスカッションにおいても特に熊大生が率先して議論を展開していて、それに長大生や九大生がついていくという印象でした。仲良くなった熊大の生徒に話を聞いたところ、熊大では授業の一環としてグループディスカッションをすることもあったそうで、そのような環境が大学内にあるために九大生との意識の違いがあったのだらうと思いました。私も日が経つにつれて、グループのメンバーに触発され自分から意見を言ったり、講演会で質問したりするようになっていました。そのようなディスカッションに参加しようとする積極性、講演会で質問しようとする姿勢は九大生に足りていない部分だと感じました。一方グループディスカッションをしていて思ったのが、他大学の学生は些細なことまで悩みすぎて時間を使い、最終的に要点をまとめる部分が間に合っていないという印象を受けました。そのような部分では普段一緒にいる九大生は情報を取捨選択し、効率的に物事を進めることが上手いと思いました。

今回九重合宿研修に参加させていただき、自分に足りないもの、自分が得意なものに気づくことができました。このような経験は自分が普段いる環境から外に出たことで得られたのだと思います。研究室生活が始まるとどうしても毎日の行動範囲が制限されてしまいその分、得られる知

識や人との関わりも限られてしまうと思います。そのような中でこの研修は学生にとって非常に有意義な時間を過ごせると共に、毎年開催されていることに感謝しなければならないと思いました。また、九大薬学部の教育プログラムには勉強だけでなく、もっとこのような交流ができる環境を作ってほしいと思いました。

#10

本合宿が始まるまでは、他大学の人と仲良くなれるのかといった不安があると同時に、講演が多いとかSGDって何をやるのだとか、そのようなことばかり考えていました。しかし、始めてみるとあっという間の4日間でした。講演では、様々な企業や研究機関にて様々な分野でご活躍されているプロフェッショナルな先生方の刺激のお話を拝聴することができました。講演をしてくださった先生方とは夜の討論会でもお話を伺う機会があり、研究のお話から人生・社会の話題まで幅広く勉強させていただきました。

また、SGD(スモール・グループ・ディスカッション)では班の人とすぐに友達になれ、現在の社会での問題点の抽出や薬学研究者が社会に貢献すべきことを真剣に話し合うことができました。その中では、自分1人では決して思いつけなかったであろうアイデアが多数出てきていましたので、こういう見方もあるのかと大変勉強になりました。また、SDGでの発表でも、プレゼンが上手な人や鋭い質問をする人が多く、またどの班もスライドが見やすく、そのような技術を学び、盗んでいきたいと感じました。また同時に、普段からもっと将来を意識して研究・生活をしないといけないという危機感も抱きました。

夜に行われた討論会および懇親会では多くの人と色々な話をするのができ、他大学にも多くの友達ことができました。今後もこの合宿で出会うことができた縁を大切にしていきたいと思いました。この合宿を通じ、多くの先生方・友達から多くの刺激を受けることができました。今後はその刺激を自分の研究・生活に生かしていく中で、少しでも自己の成長につなげていけたらと思います。最後になりましたが、本合宿を開催してくださった三隅先生、甲斐先生をはじめ、三大学の先生方、講師の先生方、友達に心から感謝致します。またお会いした時に少しでも成長した姿をお見せできるように頑張りたいと思います。

#11

「単位が貰えるんだったら」という安直な動機で参加したこの合宿であったが、終わってみれば単位よりもかけがえのない多くのモノを得た合宿だった。第一に私はこの合宿で、何人もの得がたき大切な友人達に巡り合った。人見知りで初対面の人間とはまともに会話すらできない私がたった数日間で、時にこれからの薬学者の使命や、この国の将来、それに私たちの将来について本音をぶつけて熱く語り合い、時には酒を酌み交わしながらバカ話で共に笑いあえる友人達を得ることができたことを考えると、本当に「キセキ」だと思うし、合宿から一か月が過ぎた今でも胸が熱くなる。他大学の様々な分野の人々と親しくなり、各々の考える「薬学」についての話をぶつけ合うことでこれまでの自分になかった色々な視点から薬学や様々なことについて考えることができた。班ごとに行うSGDでは「人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える」「薬学研究者が社会貢献できることは何か」という、普段の研究室生活では全く考えない広く深いテーマについて考えた。テーマが余りにも大きいので、メンバー同士の意見がなかなかまとまらず苦労したが、制限時間いっぱいまで懸命に話し合い、なんとか滑り込みセーフでスライドをまとめ上げたのは今となってはいい思い出となっている。社会と薬学を結びつけて考えることは、社会の中における薬学者について考えることであり、つまりそれは、社会にはばたく我々研究者の卵がこれから社会の中でどう生きていくかについて考えることである。それはまさに自分に対する問いかけであった。合宿が終わってもこの先ずっと考えなければならない課題だと思う。

お忙しい中、合宿の世話人を務めていただいた先生方、また貴重なご講義を賜った先生方から学んだことも数えきれない。先生方のご講義では、専門的な知識に加え、教科書で、所謂座学で得る知識とはまた違う、これからの創薬の方向性についての学びや、薬学者としての使命感、心持、

研究にかける情熱を感じる魂の学びがあったと感じている。

このような貴重な体験をさせてくださった先生方に本当に感謝している。日常から飛び出して、いい意味でも悪い意味でも(笑)非日常的な3泊4日、長いようで短かった合宿研修で私たち学生が得たものはこのA4紙1枚には収まらないくらい大きい。来年度以降も私たちの後輩、そのまた後輩によって、この良き伝統が守られつつ、それでいてより進化した合宿が延々と続いていくことを願ってやまない。

#12

今回私が合宿に参加したのは、自分が所属している研究室が毎年強制参加だったためです。自分の意志で参加したわけではありませんが、どうせ行くなら実りのある合宿研修にしようと思いい今回の合宿に臨みました。

合宿に参加して最も驚いたのは、他学生の質疑応答やグループディスカッションでの積極性でした。外部からの専門家の講演に対して質問者が一斉に手を挙げる光景は今まで見たことがなく、参加者の合宿に対する熱意が伝わってきました。逆に、私もそうですが、質問者が多すぎて自分が質問することができず、不完全燃焼に感じた人もいるかと思います。また、私のグループでは、グループディスカッションが楽しいと言っている人がいました。私は合宿に参加するまではディスカッションというものに対して楽しいという印象は全く持っておらず、むしろ楽しくないとさえ思っていました。しかし、実際にディスカッションを行ってみると時間はあっという間に過ぎ、時間不足で十分に議論することができなかつたのではないかという心残りを感じるほどでした。

交流会では、普段接する機会のない著名な科学者と話をする機会を得ることができました。研究のことだけでなく、学生時代にどのような生活を送っていたか、今の立場になるまでの苦労話などを聞くことができました。順調な人生を歩んできた人ばかりでなく、いろいろな失敗を経験することで成長した人もいるのだということを実感しました。目の前の物事に一喜一憂するよりも、将来を見据えた意識を持つことが大切なのだろうと思います。

本合宿研修を通して、普段体験できないような他校の学生や企業の研究者との交流を行うことができました。他校の学生の積極性に驚かされもしましたが、合宿に参加したのは有意義なことだったと感じています。日本の将来を担うリーダー像を実際にイメージすることができました。

#13

今回の九重合宿研修では熊本大学、長崎大学の学生と一緒にグループディスカッションやグループ発表を行いました。また講演の時間では大学の先生方や企業の方々により大変ためになるお話を聞かせていただけました。今回の合宿は自分にとって得られることも多く、とても有意義なものになったと重います。まず招待講演で様々な先生方の講演をお聞きする機会があったのですが、普段自分が専攻している分野だけでなく、創薬に関する他分野の先生方のお話をお聞きすることで研究に対する視野が広がりました。また企業の方から創薬研究者というテーマについてもお話をお聞きして、自分の将来に関することがより具体的に、真剣に考えられるようになりました。このように講演を聴いて単純に知識が増えるだけでなく、自分自身を考えられるようになったという点で、自分は今回の講演がとても有意義であったと考えています。

また、今回の合宿で一番自分にとって有意義であったのは、やはり同じ薬学部の人たちとのグループディスカッションやグループ発表を行えた、ということだと考えています。創薬という同じ目標を持つ人たちと創薬研究についてグループディスカッションを行うことで自分がそれまであいまいに考えていたことがはっきりと自分で考えられるようになりましたし、そのような同士と仲良くなれるのがとても楽しかったです。グループディスカッションでは、難しいテーマではありましたがみんなで話し合ううちに困難な課題を一つ一つ解決していくのを楽しむことが出来ました。時には意見がぶつかることもありましたが、今ではそれさえとても重要なことだったと考えています。

グループディスカッションが終わった後の懇親会ではそれまで話し合っただけで仲良くなったグルー



プや、それ以外の人たちとも打ち解けることが出来て、今後もっと仲良くなりたいと考えています。

そのような理由から、私は今回の合宿は自分にとってとても有意義で、もしまた機会があるならぜひまた今回の合宿であった人たちとも交流を深めたいと考えております。

#### #14

私は今回の九重における合宿で、普段の研究生生活や授業などでは体験することのできないたくさんのお話を学ぶことができた。熊本大学や長崎大学の学生や先生方と知り合うことができたばかりか、四日間にわたって熱い討論を交わすことで他大学の方々と親交を深め、また自分自身の将来について考えることができた。講師の先生方からは、私自身の専門とは離れた分野の非常に興味深い研究について講演をいただくことができ、創薬の最先端で行われていることを知ることができた。また、普段の講演ではあまり聴くことのできない、先生方の学生時代やその後のご活躍について本人の目線から語っていただいたことは、今後の私の研究生生活や社会人としての生き方を考える上で勉強させていただくことができた。交流会においては引率の先生方にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。甲斐先生からいただいた「酒は飲んでものまれるな」が一番の教訓になってしまいました。最後に引率の先生方には四日間にわたって様々な支援をしていただきありがとうございました。

#### #15

今回の熊本大学と長崎大学の大学院生との合同合宿研修は私にとって有意義なものでした。同じB班の学生とは仲良くなることができ、グループディスカッションでは色々意見の出し合いができました。また同じ薬学部にも属しているものの、研究分野が化学系、生物系などの様々な研究室の人が集まっているので、自分とは違った視点の意見をもらうことができました。グループディスカッションで議論を交わした二つの課題について個人的ではありますが、他の班よりもデータを多めに入れてより根拠のある意見を盛り込めたと感じています。そのことは同じB班で仲良く議論することができたのが一番の要因になったと思っています。また今回はKJ法を用いて、より多くの意見を出すように心がけるようにと言われたので、その方法に従いましたが、これから議論を交わす機会は研究室、学会、就職活動等であると思われるので、多くの意見を出すことに加え、質にもこだわって、質と量どちらも兼ね備えた意見を出していくことを目指していこうと思いました。他の班の発表を聞いて、自分たちでは出なかった意見、もしくは出た意見ではあるものの、解決へのアプローチが異なっており、そこから得ることができるものもたくさんありました。

また今回、色々な先生方から、講演を聞くことができ、その先生の専門分野について、浅くではあったものの知ることができました。私自身は有機化学系の研究室に所属しているので、生物系の講演内容を理解するのは凄く難しかったのですが、非常に興味深い講演を聞くことができたと思っています。薬学に携わっている人間として、自分の専門分野だけに強くなるのではなく、他分野についても広くそして最低でも浅めには知っておいた方がいいことを痛感しました。他分野について知ることで、自信の研究をよりよいものにすることができ、学会などにおいても役に立つのではないかと考えています。交流会のときには講演だけでは聞けないような、先生方のいままでの研究生生活などについて聞くことができこれからの自分自身の研究室生活に活かしていくことができるのではないかと考えています。

この研修合宿に参加できて色々なものが得られたと思っています。B班以外にも友人を作ることができましたし、また他大学との交流を深められたのでこれから学会などでもお世話になる際にも友人であることが非常によい影響になるのではないかと思います。これから研究室生活や社会人として社会に出たときもこの研修合宿で得られたものを活かして薬学に携わる人間として世の中の医療福祉に貢献していきたいと思っています。

今回、九州薬科学研究教育連合主催合宿研修に参加させていただき、集団がまとまることの難しさを痛感しました。集団で一つのものを作り上げるということに関して、私の班の一番の反省点としては意思表示の少なさ、下手さにあると思いました。「それは違う。」と意思表示できていないせいで、意見を通そうとする人のほとんどそのままの形となってしまう、納得してない雰囲気のまま次に進むという形となってしまった。また、お互いの意見の妥協点を探る時に「じゃあ、それでいいよ。」と納得していないことが伝わるような表現を使う人が多く、それでいいと言うのであれば「それでいこう。」と言う人がほとんどいなかったことが問題であり、司会進行も自分のまとめた内容に関して自信がもてないような形となっていたと思った。その意思表示の少なさ、下手さの原因となったのは、この合宿の間に班で仲良くなれなかったことに起因するのではないかと個人的には思った。仲良くなれなかったからこそ、理解を示せず班としての総意を作れず、うまくプレゼンテーション出来なかったのではないかと考えた。個人的な反省点として、私は1、2回目にその他の班員(役職なし)、3回目に司会進行を務めたのだが、1、2回目に関してはもう少し意見を言うておけばよかったと思った。班として仲良くなれていなかったことを言い訳としたりはしないが、何かを発言することがはばかれるような雰囲気で、班がまとまらず上手くいかなかったように思う。3回目、消極的な決め方であったが司会進行を任せられ、1、2回目の反省を自分なり活かそうと思ったが、1、2回目で作られた流れを変えることが出来ずに悔やまれる結果となった。もっと親睦を深め、お互いを知ることが出来たならば違った結果となったのではないかと考える。各大学で大学内の雰囲気が違うのはわかるが、仲良くなりたいと思い、親睦を深めようとアプローチした結果、拒否されたのは個人的には一番やる気がそがれるものであった。せめて班内に理解者が一人でもいたらと深く感じた。今回の経験は今後迎えるであろう就活に活かしたいと思った。就活においてもこのような少人数でのディスカッションと発表があることは多いと思う。そのような時に今回のような状況になったならば、班としてどうすることが上手くいくのか自分の思いを簡潔に伝え、もっといい意見が出た時はお互いのいいところを共有して、より良いものとなればよいと思った。

今回の合宿には、今後、社会を担うリーダーとして、高い志を持って、積極的に参加し質問や発表しようと意気込んで行った、というわけではなく、研究室の先輩方がもともと行かれていたため、参加したという程度の気持ちで臨みました。しかも、合宿初日の前々日まで京都で行われた学会に参加していて、先輩から聞いた話だと、相当体力を消耗する戦いになると聞かされていたので、これは体力が持つのかとも思いましたが、他大学からも参加者を募る合宿ということだったので、せっかくの機会を無駄にしてしまうのはもったいないなという思いもあり、今回参加を決意しました。

今振り返って思えば、合宿初日の三隅先生からの「この合宿は戦いやからな！」という言葉は、まさにその通りだなと思いました。終わってみれば充実感が残っていませんが、合宿中はそんな充実感を感じる暇もなく、常に「戦い」の連続だったように思います。企業や大学の先生方の講義では、普段聞けないような研究者としての心構えであったり、いかにして自分たちの持っている武器で日本または世界で戦っていくか、その工夫や新たなアプローチ、考え方というのは、一朝一夕では身につかないので、常に勉強し、挑戦し続ける姿勢というのが大事なことなのだと学びました。また SGD (スモールグループディスカッション) では、わかんねえ、わかんねえと言いながら班の仲間と SGD 課題に取り組んで意見を出し合ったり、その皆の意見をまとめて形にする難しさを知りました。SGD1 ではまだグループの仲間同士で遠慮し合っていて、ディスカッションとはいええるものではありませんでした。内容もありきたりなものになってしまっていて、どちらかといえば守る方向にまとまっていた。そこで、SGD2 では攻める姿勢で、ぶっとんだ意見を出していこうと、各自いろいろな意見を出し合い、その意見にいかにも現実味を帯びさせるかという

ことを考えていると、いつの間にかディスカッションの様になっていました。自分の頭の中だけでは思いつかないことを他の人から提案され作り上げていくという行為はとても新鮮でした。

今後、社会の一員として生きていく中で常に求められる力をこの合宿で少し得られたような気がします。良き仲間巡りに巡り合い、良き環境に巡り合って本当に感謝です。ありがとうございます。

#### #18

まずは、この合宿を主催・運営にあたり、奔走された諸先生方に感謝の意を申し上げます。ご多忙の中、準備など非常に大変だっただろうと思います。

正直、今回の合宿に参加するにあたり不安しかありませんでした。もともと社交的なほうではないし、初めて会う人が多いなかで自分の意見を言える自信もありませんでした。

しかしながら、いざ実際に合宿が始めてみるとあつという間の4日間であり、その雰囲気のためか自分では普段思えないほどSGDでは活発に発言して自分の考えを述べることができました。

また、あまり話す機会のない他大学の、しかも分野も同じものとは限らない人と話すこともでき、勉強になりました。自分とは違った視点から出る意見による自分の視野も広がったように思えます。また、講師の方々の貴重な講演も聞くこともでき、自分の知らない研究やその背景について知ることができたのは、良い経験になりました。積極的な質問も多かったため、その講義や質問内容について自分が質問者でなくてもさらに考察が深められたことも多く、よい刺激になりました。さらに、高いレベルの議論や質問などを通して、自分の克服すべき課題も見えてきました。それだけでもこの合宿に参加した意義はあったと思います。夜の討論会も講師の先生方をはじめ、他大学の先生、学生と交流できる貴重な機会であったと思う。

おそらく、こうした感想を書く場では「有意義であった」や「貴重な体験だった」、「素晴らしかった」という意見が多そうなので、あえて苦言を呈するならば討論会の限度を考えてほしいところだ。男部屋の寝る部屋で行うため寝たい人は寝られず、自分の限度を考えずに飲む、度数の高い酒とビールしか持ってきていないなど配慮に欠けている。この合宿に期待していただけに、そうした部分には失望した。

来年以降も続けてほしいこの合宿だが、悪い部分はその都度リファインして、より良いものにしていくべきではなかろうか。

#### #19

九州薬科学研究教育連合合宿研修、いわゆる九重合宿は実際に行くまでは、私にとってそれほど楽しみなイベントではなかった。その理由としては初対面の人と話すことや大勢の前で話すことが苦手で、自分は上手くできないと思っていたことがある。さらに、三隅先生からの最終の連絡メールでは、持ち物の中に“やる気と根性”が追加されており、「何をやらされるのだろう」と少し身構えつつ参加した。しかし、実際に参加した後は言うまでもなく、達成感や自信、課題や目標、周りの人からみてもわかるほど多くのものを身につけた4日間であった。

SGDの課題であった「人口減少に伴う社会的・薬学的課題を考える」「薬学研究者が社会貢献できることは何か？」薬学研究者として将来自分たちに直結してくる課題であるが、実際にこれらについて考えることは少なかったことにも気がついた。講演会等で考える機会は度々与えられているが、これまでどこか他人事のような、具体性をもたないものであった。人口減少という日本の将来に危惧したり、現在活躍している薬学研究者の話に感銘をうけたりするものの、結局自分はどうするべきなのか、どうしたいのかまで掘り下げることはできていなかったように思う。この課題を与えられた時に、自分の中にあまり答えがなかったことに少し焦燥感を覚えたのも確かだ。アメリカの実業家 ジャックウェルチの言葉 “Change before you have to. 変革せよ、変革を迫られるまえに” で知られるように「変わらなきゃ」と思った時にはもう変わるタイミングを逃しているのかもしれない。時代を先読みすること、そして誰よりも早く行動に移すこと。今は目の前のことに精一杯になりがちだが、私はもっと自分の将来に真摯に向き合わないといけない

と思った。

これまで、質問すること、自分の意見を述べるのがなかなかできなかったのは、自分の考えが受け入れられるのか、的外れなことを言っていないかなど不安要素ばかりが浮かぶからだった。私の知識は十分ではないし、これからも確実な自信を持った発言ができることはないと思う。それでも自分のなか考えをアウトプットしなければ、何も変わらない、変えられないのは確かだ。この合宿は、発言することへの敷居が他と比べて低い。同じ学年の同じような状況の学生の集まりであるし、とにかくなんでも発言していいと言われ、その機会も多い。こういった環境はこれまでの自分を変えるチャンスだったと思う。実際に積極的になってみると、発言することに不安要素はあるが、得られるものの方が実は大きいのではないかとということは今更ながら実感した。かっこいい言い方をすれば、発言することを恐れず、発言しないことを恐れよ、という感じだろうか。実は私は自分の考えのアウトプットがかなり苦手だ。それは研究室に入ってから先輩などから言われてきたことだったが、自分のなかのイメージを上手く言葉に整理しきれていないことが多く、相手に上手く伝わらない。伝わらないから、諦めて自分だけでなんとかしようとする。周りが見えなくなりやすいし、自分のなかだけで完結してしまう。今回のSDGでもやはり少し、そういった部分がでてしまっていたようだった。しかし、飲み会の際に、それを指摘してアドバイスをくれる仲間がいたことがとても頼もしかった。自分だけでやろうとせずに、まずは周りの意見を聞くこと、そのなかで自分なりに整理して出していけばいいこと、仕事をふる、任せるのも大切だということなどなど。同じように頑張っている仲間がいること、彼らと考えを共有できたことは私のなかでとてもいい刺激になったと思う。

この熱が冷めないようにこの合宿で変わった自分を生かしていけるように頑張りたいです。準備をしてくださった先生方、ありがとうございます。先生方にとっては大変だと思いますが、是非これからもこの合宿が続いていって欲しいと思います。

#20

最初、九重合宿に行くときに、以前、九重合宿に参加した先輩から「自分の意見をどんどん言わないと参加した意味がないよ」といわれ、ちゃんと自分の意見が言えるのか、議論についていけるのか内心、かなりドキドキしました。

九重合宿1日目に私は、思い切って最初の講演から手を挙げて、質問しました。そして、質問したことで、緊張感がだいぶほぐれ、その後の講演やSGDでも積極的に自分の意見を言うことができました。SGDでは、普段味わえない白熱した議論や普段ほとんど考えたことがない議題をみんなと意見を出し合い、協力し、一つの集大成を仕上げ、とても有意義な時間だったと思います。また、今回参加した人達もみんな薬学生だとはいえ、研究分野も違い、研究室の雰囲気も違い、またひとりひとり、考え方や価値観も違っていて、やっぱり、いろんな人と関わることはとても重要だなと感じました。

懇親会でも、普段は自分の研究室の先生以外とはあまり話すことはないんですが、九重合宿では、3日間もいろんな先生と話す機会があり、これからの研究生活のモチベーションがかなり高くなりました。特に、理研から来られた斉藤先生はかなり親しみやすい方で、ワクワクするような話をたくさん聞くことができ、「これからも実験頑張ろう！」と思いました。

今回、合宿に参加できて、とても良かったと思いますし、この合宿で学べたことを今後、どんどん生かしていきたいと思います。企画をしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

#21

正直に言うと、本研修を受ける前にこの合宿に持っていたイメージはあまり良いものではなかった。というのも、先輩方から聞く合宿のイメージは飲み会が激しいことや日数が長すぎることなどマイナスな部分しか聞いていなかったためである。自分もゼミ前ということが重なり、あまり気乗りしないまま合宿初日を迎えたように記憶している。しかし合宿を終えた今、間違いなくこの合宿に参加してよかったし、この合宿の経験で私は変わったと言える。



まず、他大学から参加されている先生方、特にタスクフォースの先生方やSGDのメンバーとの交流は、今まで自分にはなかった視点を与えてくれる新鮮なものだった。ディスカッションが行き詰った時、的確な言葉で方向性を指し示す力が自分には不足していることに気付くことができた。また、講演中に興味を持った質問を講演者にぶつけないのは相手にとって失礼であり、自分の成長も抑制していることに気付くことができた。実際合宿後の講演では、普段行っている研究とは異なる分野の講演ではあったものの臆することなく積極的に質問することができた。最後に各大学から来ていただいたサポートの先生方、施設を運営されている方々、そしてこの合宿に集い刺激を与えてくれたM1の参加者、特にSGDで1日不在だった私を温かく迎え入れてくれたB班の皆さんに心からの感謝を捧げたい。合宿の2日目に失敗をして、すべての参加者にご迷惑をかけてしまい猛省したことも、成長のための良いスパイスになったのではないだろうかと思う。

## #22

今回九重合宿で一番学んだことは積極性です。今までにないくらい質問も発言もしました。普段の講演会と今回の合宿の講演会とは聞く姿勢や聞き方が違いました。質問する内容を考えながら聞いていたため、普段より眠くならず質問したい内容やポイントがあれば質問することが出来ました。今後の講演会やセミナー等でも活かしていきます。

この合宿に最初は乗り気ではありませんでした。まず、3連休が潰れることや他にもやらなければいけないことが山積みであるからでした。しかし、行ったからには全力で楽しみ、全力で自分の為になるようなことを得て帰ろうと思いました。

今回の合宿で先生方の優しさを身に染みて感じました。私が椎茸を異常なまでに嫌いということで何度も声をかけて下さったり、別の鍋でだご汁を作ってもらって下さったりして本当に迷惑をかけてしまったと思い、また、他にも親切な対応をして下さったので、やはり先生ってすごいんだなと思いました。

今回の合宿で一番得られたのは自信だと思います。今までは全く自分に自信がなく、何もできない奴だと思い込んでいました。自分には何の能力もないから、他の人の迷惑にならないように話さないでおこうか思ってしまったたり、質問もどうせ的外れなことしか出来ないからしないでおこうか思ってしまったりする事も多かったです。でも今回他の皆も酷い質問も遠慮なくしているし、九大や長大の人達だって大したこと聞いてなかったのだから、自分に特別能力が無いのではなくて、出来る人がたまにいるくらいで自分は平均くらいなのだと思うことが出来ました。

SGDで思ったことは、他の人に意見を伝えることの難しさと意見を時間内にまとめることの大変さです。班での話の内容が明らかにおかしな方向に向かっているときに止めようとしても口調が強い人や発言力がある人に全てねじ伏せられたので、そのような人でも納得させられるような言い方をすることや知識をつけることが大事なのだと思いました。また、班員の意見が合わないため、意見がまとまらず、一人で一から作った方が速いのはと思うことも何度もありました。それでも何とかまとめることは出来ましたが到底納得のいくものではありませんでした。

SGD2では司会をしましたが、本当に難しかったです。まず、司会は自分の意見を前面に出すべきなのか、それとも大多数の意見を採用すべきなのか、良いなと思った案を採用すべきなのか迷いました。また、タイムキープも難しかったですし、適材適所の役割分担を行いたくても他大学の人の習性が分からないですし、役割を皆に回さなければいけないということで適材適所には限界がありました。他の人に舵を握らせてしまう良くない司会の例でしかありませんでした。能力や知識をつけて、他の人に聞いてもらえるようなことを言えるように頑張り、自信を持って声を大にして言わなければいけないのだと思いました。

## #23

3泊4日の九重合宿研修を終えて、普段の大学生活とは違う観点から、多くのことを学ぶことが出来ました。企業やほかの大学の先生方の講演を聞くことができたのは、とても有意義なもの

であり、スモールグループディスカッションでは、どのように自分の意見を伝え、他人の意見を聞き、班の意見としてまとめていくかということを考え、学ぶことができたと思います。研修を終えてからこそ、このように参加して良かったという事を言えますが、正直私は、今回の研修が始まるまでは、研修に対してネガティブなイメージしかありませんでした。講演・討論会では、一人一回以上質問しなければならず、スモールグループディスカッションでは、初対面の人と話し合い意見をまとめていくというものであり、普段積極的に発言するほうではない私にとっては大変な研修に感じられました。しかしながら、実際に研修が始まると、積極的に手を上げて質問をする同学年を目の前に、自分もこのままではいけないという意識が少しずつ生じ、結果的には手を上げて質問することができました。今までの自分からすると大きな進歩だったのではないかと思います。さらに、スモールグループディスカッションでは、積極的とまでは言えなくても、その時ディスカッションしている内容について自分がどのように考えているのかを発言することができました。また、今回スモールグループディスカッションについての説明を受けた際、他人の意見を批判せず、受け入れることも大事だということを知り、それを意識して、ディスカッションに参加することも心がけました。他人がどのような意図で、その発言をしているのかを良く考え、自分が考えていたことと照らし合わせることで、たとえそれがまったく違う意見だったとしても、お互いの主張を取り入れて、新たなアイデアにならないかという事を考え提案していったのではないかと思います。他人の意見をよく聞きつつ、自分の意見もきちんと伝えるという事が、初対面である他の大学の学生とできたという事は、とても充実したものでした。今回の研修では、普段の学生生活の中ではなかなかできないような貴重な経験を通じて、自分に足りていない部分を改善することができたと思います。まだまだ、足りない部分は多いですが、今回の研修で学んだことをさらに伸ばしていけたらいいと思います。最後になりますが、九重合宿研修を開催し、運営して下さいました先生方ならびに講演して下さいました先生方には本当に感謝したいと思います。ありがとうございました。

#### #24

今回九重合宿に参加して長崎大学や九州大学といった普段ふれあうことのない様々な人とディスカッションをし、自分にとってとても刺激になりました。始め九重合宿に参加することが決まり、日程を確認した時、講演会やグループディスカッションが朝から夜までほとんど休みなく入っていてついていけるか不安でしたが、時間がたつのがとても早く有意義な時間を過ごさせていただきました。

特に今回勉強になったのが1日目から4日目に毎日行ったスモールグループディスカッションです。10人という少人数で一つの議題についてどのようにディスカッションするのは初めてで、始めはみんなさぐりさぐりの状態でしたが、僕の班は時間が経つ程みんなが自分の意見を言いあい、とても活発なディスカッションができていたと思いますし、それぞれ自分の意見と他の人の意見が合わないときも、自分の意見を貫き通すのではなく、人の意見を参考にしつつみんなでスライドづくりや推敲ができていて、ユニークなものもあったんですけど個人的には非常に良い仕上がりになったと思います。全体で行った討論会では、まず参加者の積極性に驚き、いろんな意見や発表を聞いてこういう考えもあるんだなととても参考になりました。全体の場で自分の意見をはっきり言うのはとても大事なおとなので自分ももっと積極的に発言できるよう努力したいと思います。

また、夜の交流会では熊本大学の学生だけでなく長崎大学や九州大学の学生、他の大学の先生や講演会にこられた方々ともいろんな話ができて、とても楽しかったです。普段あまり聞く機会のない他の分野の話や他の大学の話は非常に興味深いものばかりでした。特に有機系の分野は勉強不足でわからないことが多かったのですが、いろいろと教えてもらって少しだけ知識を身につけることができました。

今回九重合宿という貴重な経験ができたことをこれからの大学院生活に生かしていきたいと思っています。またこのような機会があれば参加したいですし、刺激をたくさんうけて自分にとって有

意義な時間を過ごすことができると思うので後輩にも積極的に参加してほしいと思いました。

#25

今回の合宿に対して私が最も期待していたのは、数多く開催される講演会よりもそこに集う人々との交流でした。というのも講演会については内容が違えど学内でも行われますが、演者の方や他校の先生・生徒と話をする機会というのは今までほとんどありませんでしたので非常に楽しみにしていました。

合宿の初日はずっと緊張していたように思います。グループのメンバーや自己紹介、初めてのディスカッション、更にはグループ内でのリーダーシップの取り方など直前まで頭を悩ませていました。しかしいざ始めてみると、メンバーが良かったこともあり驚くほど早く時間が経っていました。SGD1では司会を担当しましたが、司会として話をする時と自分個人の意見を言う時の区別が曖昧になってしまう時がありかなり苦戦しました。更には初めてのディスカッションだったためか時間配分が上手く行かず、反省点の多い時間でした。この先3日間過ごせるのかという不安は増すばかりでしたが、真面目で重苦しい日中からは一転して賑やかで楽しい夜の討論会を過ごせたことで不安が消え、めいっばい楽しく過ごそうと思切ることができました。その討論会では何人かの先生や講師の方に突撃しましたが皆さん快く応じてくださり、お酒の力を借りて多くのことを話すことが出来ました。他校の生徒とも沢山関わり、合宿を通して気軽に話のできる友人を新たに見つけることができたのは幸いでした。2日目の夜の交流会では正直美味しいごはんに目が行ってしまい、更には中央に座っておられた先生方に近寄りたいたい雰囲気を感じてしまったため交流がうまくできませんでした。空気など読まずにあと一步を踏み出せる勇気があればとこちらでも後悔が残りました。討論会は研修会におけるもうひとつの醍醐味ですが、3日目の夜に酷く酔ってしまいそのまま4日目もほとんど動くことができませんでした。自分の体調管理の甘さを痛感しました。

4日間を通して本当に沢山の講義がありましたが、その中で最も印象に残ったのは九州大学の戸先生のお話でした。いわゆる体内時計を考慮した疾患治療ということで、個人の体内時計をどのように知るのか、どう治療に役立てるのかなどとても興味深く聞かせていただきました。講演会が終わった後や夜の交流会の時にまで伺って様々なお話を聞かせていただきましたが未だに興味と疑問が尽きません。今後どこかでより深くより発展したお話を伺う機会があることを願うばかりです。SGD2では全員の緊張が解れ、ディスカッションにも慣れて非常に盛り上がりました。方向性がずれてしまったり行き詰まったりすることもありましたが、サポートの先生の助言もいただきつつ資料を完成させました。活性化した事自体は良かったと思いますが、最終的に個別で作業することになってしまったのは改善すべきだったのかもしれない。

3日目の晩の失態が印象として大きくあまり良い活動を出来なかったと思っていましたが、驚いたことに優秀賞をいただくことが出来ました。当初の目的であった人との交流が楽しめただけでなく研修中の態度を評価してもらえたことで、自分でも驚くほどの充実感を得ることが出来ました。この研修を通して良かったことも悪かったことも多々ありますが、優秀賞が分不相応だと言われぬようこの研修で得たことを今後の研究生活に活かしていきたいと思えます。

最後に、研修中にお世話になった先生方や演者の皆様、共に研修に参加した学生全員に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

#26

今回の九州薬科学研究教育連合主催合宿研修はとても有意義なものであったと思います。まず1つに同学年同士によるSGDでは、同学年であるための気楽さと他大学・他研究室の学生に劣りたくないという気持ちから普段では発揮されない積極性や学生ならではの突発的な意見をすることなど議論に関して必要な事をたくさん学べたと思います。またSGDでは意見するだけに留まらず、相手の意見を尊重しその上で何を考えるかという意見を否定しがちな学生にとって議論を発展させるための技術と心構えを学ぶとてもいい機会だったと思います。

次に、多数の講師を招いていただいた講演会は多分野に渡っており、自分の研究に没頭するあまり視野が狭くなりつつある学生にとってとてもわかりやすく知識欲・興味を刺激する講演をしていただいたことは貴重な体験だったと思います。また講師の先生方には浅学な学生の質問にも丁寧に回答していただき、質問欲と言いますか質問を次から次へとしたくなる講演でとても楽しめるものであったと思います。

最後にはほぼ毎晩行われた交流会では普段話す機会のない大学講師の方々や企業や研究所の講師の方々、他大学の学生と話すことができ、よりステップアップするにはどうしたらよいか、博士(後期)課程に進むにはどういうことを考えて研究と向き合ったらよいかなど、直属の研究室の先生方からは聞けないことを話してくださりすごく勉強になりました。

以上の3点から今回の合宿研修および来年度以降の合宿研修もすごく学生にとって有意義なものになっていくだろうと思います。

しかしただ1点残念に思えたのは、交流会で羽目を外しすぎる学生がいたことや男子学生の就寝場所である大部屋が交流会の会場になっており、次の日の講演や発表に対し睡眠をとり万全な体調で迎えたい学生にとってすごく不快であったという事実があることです。合宿研修所の関係から男子学生の就寝場所を確保することは難しいかもしれませんが、寝るところがない・うるさくて寝ることができないなどの感想が次の学年へ伝わることでせっかく有意義である合宿への参加に不安を抱える学生が出てきてしまうということが非常に残念です。カリキュラムはとても素晴らしく一度体験したら帰る頃には有意義だったと言う学生が多いでしょうが、合宿への積極的な参加を求めるのであれば就寝場所の改善を行うことで学生の不安を取り除くことは一つの方法だと思います。

## #27

合宿に行くまでは、三泊四日という長さに気が引けていましたが、始まってみればあつという間の四日間でした。この四日間のスケジュールは想像していたよりもみっちり、本当に濃いものでした。まず、今回の合宿研修に参加するだけで、様々な企業の方の講演を聞くことができたのはとてもありがたかったです。それぞれの企業について理解が深まっただけでなく、演者の方たちの研究者としての考え方・生き方など、非常に面白く興味深い話がたくさん聞けて、貴重な時間となりました。また、講演の話にとどまらず、交流会の際には個人的にお話することができたため、とても楽しめました。

この合宿は熊大・九大・長大の三大学で行っているということが大きな特徴だと思います。スモールグループディスカッションを通して、自分の大学のみならず、他大学の学生の意見を全員みんなで共有して、議論を深めていくというのは、日頃の学生生活ではできないことだったのでとても新鮮でした。一つの議題に対して意見を出し合い、一つのプレゼンを完成させるのは、想像以上に時間も労力も要しましたが、振り返ってみると楽しいものだったように感じます。グループ討論でも全体討論でも、どんどん色々な意見が出てくる場合は、本当に刺激的でした。自分の思いつかない考えを他人は持っているということ、身をもって感じることでできる機会だったなと思います。

四日間で感じたこと・学んだことは、残り少ない学生生活、さらにはこれからの人生に大きな影響を与えるものだと思います。今後、この合宿の経験が無駄にすることなく、薬学研究者として過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、三隅先生をはじめ、今回の合宿研修を企画・運営して下さった先生方、貴重なご講演をして下さった企業の方々、四日間の過密スケジュールと一緒に乗り越えてくれた学生みなさんに感謝します。ありがとうございました。

## #28

この合宿では企業の方や各大学の先生方の講演を拝聴できたことは自分にとってプラスになったと思う。また、懇親会の席では他大学の先生はもちろんのこと、同じ大学の先生方でも普段接



する機会がない先生方とお話しができた点でいい経験をしたと考える。

しかし、問題点も多かったと思う。まず、small group discussion だが、SGD1 は約、3 時間、SGD2 は 4 時間しか討論する時間がなかった。この程度の時間しかなく、10 人の意見をまとめ、内容を深めることは不可能だと考えられる。SGD1 に関しては 3 時間の内容を発表する価値などないに等しいと思われ、内容が表面的になるのも仕方ないと思う。SGD1 を受けての SGD2 であればはじめから 1 つの課題として出しておいたほうが良かったと思う。

次に、飲み会の席を男が寝る大部屋であることを廃止するべきである。全員が飲みたいわけではないし、早く寝たい人もいるのに騒がれるとやる気があった人でもやる気が失せる。大部屋するにしても時間を先生方が管理しないといつまでたっても眠れない。

最後に優秀発表賞の選定の仕方にも問題があるかと思う。確かに初日に言われた選定方法で間違っていないと思う。しかし、飲み会の席でつぶれ、嘔吐したり、他人に迷惑をかけた人が優秀発表賞に選ばれているのは納得いかない。また、自分はほとんど質問していないのでこのようなことを言える立場ではないのだが、質問の回数だけを稼ぎ、質問の内容が希薄な人も多数見受けられた。意欲としては申し分ないが、それだけなのに優秀だと認定されるのもどうかと思う。総じてこの九重合宿は 3 連休をつぶしてまで参加する意義はなかったと考える。

#29

私は積極的な性格ではないので、はじめは知らない人がいる中で質問をするなんてとしましたが、みんなとても積極的でしたのでとても刺激になり、私も質問したいと思うようになりました。3 年生で研究室に配属されてからは、他の研究室の同級生と競って勉強することがなくなってしまったので、みんながどんな生活を送って、どんなふうに研究しているのか知りませんでした。今回の合宿を通して、みんなが講演の内容を理解し、積極的に質問をしていたので、普段からの研究への姿勢が感じられました。普段からもっと勉強し、質問する癖をつけていきたいと思いました。大学別でそれぞれカラーがあるように思いました。長崎大学の方は、はじめは控えめな印象でしたが、後半はかなり積極的になられていたので見習わなければと感じました。

スモールグループディスカッションでは、1 年生の時に授業で行った KJ 法を使ったものだったので、要領はわかっているつもりでした。自分はそのような場では発言できないと思っていたのに、自分の意見を積極的に言えたので、振り返ってみて自分でも驚きました。1 年生のころに比べ、積極的にディスカッションの輪の中に入れるようになり、この合宿で成長できたのではないかなと思いました。意見がまとまってきてから、実際にスライドを起こすのがとても難しく、なかなかまとまりませんでした。考えをまとめて順序良く発表することの難しさを痛感しました。SGD を行う機会は普段はありませんが、日ごろから自分の考えをまとめる練習をしていきたいと思えます。

SGD は就職活動でも行われるところが多いので、合宿で身に着けたように、知らない人と意見を交換して、一つの意見にまとめていく力を生かしたいと思えます。黙っては何も進まないことは今回十分感じたので、常に考え自分の意見を言えるように、努力していきたいです。自分はどんなことを考えられる人間かをアピールできるようにならないかなと思いました。今回同級生ばかりの合宿だったので、いつか就職活動で出会うかもしれない相手であり、実際の就活の練習になったのではないかなと思えます。

同級生が積極的に質問・発言する姿はとても刺激になり、私ももっと積極的になる必要があると感じました。合宿を通して、大勢の方がいる中で質問や発言することに抵抗が少なくなったので、今後もこの気持ちを忘れないように精進していきたいです。

#30

今回の合宿研修は自分にとって非常に有意義な研修となりました。講師の先生方の熱い講演から学生のみで行う SGD、夜の交流会まですべてが刺激的で内容の濃い二日間となりました。準備をはじめこの合宿研修に関わっていただいたすべての先生方に感謝申し上げます。この合宿研修

の中で一番自分の中で刺激的だったのは他大学の生徒と行う SGD でした。SGD では同じ班の人の知識量の多さや発言内容のレベルの高さに終始驚かされました。同時に自分も同期のみんなに負けたくないという強い刺激を受けました。普段ほとんど他大学の方とディスカッションする機会というのはないので今回の合宿研修に参加できたことは幸運でした。また、夜の交流会を通して自分の班以外の学生とも親交を深めることができ、最高の2日間となりました。この合宿研修を通して学んだことを無駄にしないよう日々の研究活動に取り組み、精進していきたいと思います。

#31

九重セミナーに参加して、たくさんの事を学ぶ事ができました。私が特に勉強になったのは、スモールグループディスカッションで白熱した議論をかわしたことです。グループディスカッションでは、自分の主張をはっきりと分かりやすく伝えることはもちろんですが、他の人の意見を聴き、理解し、その上で、グループとしての案にするという事の難しさと、多数の意見をまとめることの大切さを感じました。個々の意見を他人に押し付けることは、簡単ですが、それぞれの意見を吟味し、全員が納得する考えかたをひねり出すということは強い組織力を作るうえで必ず求められることだと考えます。そこまでのレベルの高い討論までは行かなかったですが、ディスカッションを重ねて、その過程の難しさをここで体験できたのは将来の財産になりうると感じました。また、企業の先生がたの講演では、データだけの話だけではなく、裏話や先生がたの意気込みと行ったこともお話して下さり、研究への姿勢や考え方等に大きな刺激になりました。実際にすばらしい研究をされた方のすばらしい経験を聞く事は今後のいろいろな場面で生きるとおもいます。また、交流会ではその先生方と講演で聞けなかったことや、企業の詳しい話など、普段ではなかなか得る事が難しい情報について聞く事ができ、確実に、これからの進路設計に影響するような有用な機会にもなりました。

九重合宿で得られたことをこれからの研究生活にいかして行きたいを思います。ありがとうございました。

#32

今年度の九州薬科学研究教育連合主催合宿研修の参加に当たって、正直最初は行きたくないなと思っていました。せっかくの3連休がなくなってしまうし、人見知りで他大学の人と会話できるか不安だし、合宿から帰ってきた次の日からすぐ研究室が始まるし…等の理由です。しかし3日間の合宿を終え帰路に着く際に、「この合宿に来てよかった。本当にいい経験ができた。帰りたくない！」と思うようになっていました。

初日着いてすぐにオリエンテーション、内海先生のビデオレターを終え、各グループ内で各自の研究内容の紹介を行いました。私は人前、特に初対面の人の前での発表はすごく緊張してしまうのですが、なんとか発表を終え質問にも答えることができました。そして講演会の後、班ごとのSGDが始まりました。ここにおいてもまだ初対面で緊張しており、「みんな頭いいんだろうな。。自分の意見を否定されたらどうしよう…」という気持ちから、最初の方はほとんど発言することができませんでした。しかし勇気を出して発言した意見を「その案いいね!」「新たな視点だね」と言われたときはとても嬉しく、最終日にも思うのですが、いい班員に恵まれたなと感じることができました。

二日目では、前日のSGDの発表に向けて朝食を早めに済ませ時間前に集合し、発表の準備を必死に行いました。制限時間ギリギリにスライド資料を完成させ、発表を無事に終えることができました。息つく間も無く次の議題でのSGDが始まり、初日は緊張してばかりであり気づくことができなかったのですが、3大学からそれぞれ専門の違う人が集まることで、様々な視点から物事を考え、様々な意見を出すことができると実感しました。またスライド作成の際の調べ物も、それぞれの専門分野ごとに役割を分担することができたのもよかったと思いました。

三日目は朝から講演会が連続して行われ、講演会での質問も行うことができました。夜の討論

会(飲み会)では、初日の飲み会ではどうしても同じ熊大生と話してばかりでしたが、他大学の先生や他大学の生徒、講演会をしてくださった先生方と積極的にコミュニケーションを取ることができました。

最終日もあつという間にプログラムが進行し、修了式を終えてすぐに各大学とも帰路に着いたので班員のメンバー全員と最後挨拶をすることができませんでした。しかし帰りのバスの中で私たちB班はグループラインを作り、それぞれが大学に帰った後もしばらくライン上で皆がそれぞれ追加の意見を出し合って討論していました。いつかこの班員で再会して飲み会を開けたらなと思っております。

今回この合宿に参加しなければ、他大学の方と友達になることもできず、普段お話することができない先生方と交流することもできなかつたと思います。そのような機会を今回与えてくださり本当に感謝しております。合宿での経験を忘れることなく、これからの研究活動に繋げていきたいと思っております。

#33

私は、今回の九重合宿を通して、思っていた以上に多くのことを学び、得ることができた。中でも、主体性と積極性がいかに重要であるかということ強く実感した。合宿の始めは、講演会や各グループの発表での、友達や他大学の人の積極的な質問の数の多さや内容の濃さに圧倒されてばかりであった。しかし、そんな仲間と一緒にスモールグループディスカッションや講演会を聞くことで、次第に質問することに対して抵抗がなくなっていき、遠慮せずに意見を言うこともできるようになった。また、グループディスカッションを行うことによって、自分が知らなかった情報や、様々な考え方を得ることができ、非常に勉強になった。勉強面以外にも、他大学の友達と交流することによって、同じ分野で勉強していく友達が増え、大学生活や就職活動などの話をすることができて楽しかった。

さらに、合宿中でいろんな企業の方や先生方の講演を聞くことができただけでなく、討論会の場でお話することができ、非常に有意義で貴重な機会であった。この合宿を通して、いろんな面で自分自身が成長でき、様々な方との交流ができて、濃く実りのある時間を過ごすことができた。今回経験したことを、大学生活や研究室生活に生かし、今後も精進していきたいと思う。

#34

九重合宿は最初には本当に行きたくなかつたです。半ば強制であつたし、三連休は潰れることになるので不満しか口にしていませんでした。しかし、過去多くの先輩と同じことを言っていると思いますが、他大学の生徒とディスカッションできたり、貴重な講演を聞くことができたりと、本当に行つてよかつたと思えまつたし、行く前とは全く打つて変わったような気持ちになれました。中でも一番よかつたことは、日ごろすれ違つて挨拶をかわすくらいしか話したことの無い先生たちとお酒の席で話ができまつたことです。将来のことや、日常生活のこと、先生方の学生時代のことなどを特に話して下さつた小谷先生、小橋川先生、倉内先生本当にありがとうございました。またこれから社会人になるにつれて三隅先生の「何か面白いことをやれ。」で面白い返しは必ず必要になってくつると思いますのでその辺りも考えていきたいです。この度は多くのことを学ぶ機会をくださつてありがとうございました。

#35

私は九重合宿行く前、あまりいいイメージは持っていなかつた。できるなら行きたくないと思いつつ九重に向かつた。かなりハードスケジュールでこんなにできるのかとも思つた。

しかし、初めのグループでの自己紹介をかねた自分の研究紹介のとき、グループのメンバーは様々な分野から集まつており日頃聞くことができない分野の話を聞くことができ、非常に有意義でした。

さまざまな分野の先生方による講演は日頃聞くことのできない貴重なご講演ばかりでした。質問

をしなければならないので、質問をする前提で話を聞く癖がついた。

スモールディスカッションに関しては、グループのみんなと仲良くたのしくディスカッションもでき、すごく楽しかった。私たちが今後将来薬学研究者として、どのように活躍できるかについて考えることができた。日頃このようなことを考える時間がない中で、考える機会さらに同じ学年の学生と一緒に考えをシェアすることができた。最初のディスカッションはあたりさわりのない発表となってしまったので、みんなでばかになってふつう考えられないグループBだけのオリジナルな発表にしようがんばって意見を出し合った。様々な分野からあつまっている自分と異なった視点を持った意見を聞くこともでき刺激を受けた。最終的には先生方に面白いコンセプトだと言ってもらえ、とてもうれしかった。もっと時間があればもっとよいものになったと思う。Bのコンセプトはグループみんなが活発に発言していたからこそできたと思う。最終的には九重合宿に行ってよかったと思う。

#### #36

今回の九重合宿を終えて他大学の同じ学年と多く交流したことでいろいろなことを学ぶことができたと思います。グループディスカッションでは普段しないような話をいろいろな視点から討論できたのでよかったと思います。また一番楽しかったのはやっぱり飲み会で九大の人ととても仲良くなることができ今でも連絡を取るような仲の友達もできました。このような機会はないと思うので、この出会いを大事にしてこれからも仲を深めていきたいと思います。

#### #37

私にとって、今回の3泊4日の合宿は、自分が成長できる場であった。私は、この合宿で振り返る point を大まかに二つに分けた。

一つが、講演参加の多分野の先生方による最先端研究の紹介と各大学の先生方も交えた交流会についてである。講演の中で先生方が自分の研究人生で、自分たちと同じように学生で苦労した話や卒業後の進路決定の話など、なかなか日ごろ聞けない話を聞けて勉強になった。実際、学年も上がり将来について向き合う必要がある状況にあるため、参考にでき、有難かった。講演で興味深かったことが、異分野の先生の話聞いたことである。講演内容は日ごろ触れる機会が少ないものであり、新鮮に感じたし、知識の幅が広がった。それに関連して、アカデミアだけではなく企業・研究機関の先生の話も印象的で、創薬の観点で必要なのが常識にとらわれない戦略考え方であり、広い経験、幅広い考えを持たなければならないと意識させられた。また、ただ個人で研究するだけでは通用せず、その過程で積極的にチーム、他の研究組織と協力することが大事であることも学ぶことができた。

次に、他大学の院生とのグループワーク・交流について述べる。これが今回の合宿で一番印象深い。グループワークをするうえで、最初の自己紹介の時は皆緊張しており、硬さがあったが、議論が進むにつれ白熱した discussion に代わっていった。面白いのが自分も知らず知らずの内に積極的に話し合いに参加できていたことである。もしかすると班メンバーの熱量に背中を押されたのかもしれない。また、班活動で意見を気兼ねなく言い合える雰囲気心地よかつたし、メンバーが自分にはない切り口で意見を述べており、考え方の参考になった。発表会の際、皆質問をかなり積極的に行っていて、最初圧倒された。然しながら、時間が経つにつれ、私もその雰囲気の中で積極的に質問でき、楽しむことができた。発表に対して質問をしようとするにより、発表・講演の内容の理解も以前よりも密にでき、受けでなく、主体的な攻めの姿勢が大事だと感じた。また、交流会を通して、普段他の薬学部の学生と話す機会が少ないので非常に良い経験をさせてもらった。院生としての立場も同じであり、研究や将来についての話が共感できたこと、物事の取り組みの姿勢など見習いたいと思うことが多々あった。交流を通して、皆かなり親しみやすく、仲良くできたことに感謝である。今後また会う機会に恵まれれば、ぜひ合宿の話を肴に酒を酌み交わしたい。

最後に、最初にあまり乗り気でなかった合宿も、参加してみるとあっという間に終わるもので、



後に振り返ると密度が濃かったと感じる。三日間の貴重な体験は、非常に刺激的であったし、学生生活のモチベーションを上げてくれた。最後に、共同でこの合宿を乗り越えた班のメンバー、及び仲間たちに感謝を伝えたい。そして、私達のためにわざわざ遠方から来て下さった先生方、運営及びSGDで指導して下さった先生方には厚く感謝申し上げたい。

#### ◇長崎大学◇

#38

僕は正直なところ今回の合宿への参加にはあまり乗り気ではなかった。過去に参加した先輩方からも4日間は非常にタイトなスケジュールで、昼間の活動も夜の飲み会もきついと聞いていたので、うちに研究室は全員参加と言われた時から参加する日までずっと行きたくない友達にもぼやいていたほどである。しかしいざ合宿に参加してみると、参加前までは拘束時間が長い！と思っていたのが嘘のようにあっという間に時間が過ぎて行ってしまった。グループディスカッションは班員に恵まれたこともあり非常に活発な議論ができたので、たくさんの意見をまとめるのに逆に時間が足りないほどだった。そしてこのグループディスカッションからも多くにことに気づかされた。自分の班は自分の意見を積極的に述べる人が多く、たくさんの意見が出る一方でうまく全員の意見を踏まえてまとめられる人があまりいなかった。自分自身は普段は自分の意見を言ったり、実際に行動したりすることが多かったが、今回のグループディスカッションでは全体の意見を踏まえてまとめること、決められた時間の中で効率よく進めていくこと念頭において活動するようにした。今回の合宿中のグループディスカッションで集団の中での自分の役割についてこれまでなかった引き出しを作ることができたと思う。これだけでも自分にとっては非常にプラスになる合宿だったと思う。講師の方々の講演会の時もそうだったが、同年代の大学院生の積極的な姿勢には大きな刺激を受けた。普段他大学の同じ志をもった学生たちと交流する機会はないため、今回の合宿でのライバルたちが活発に活動する姿を見てもっと頑張らないといけないという思いにさせてくれた。また交流会などを通して多くの仲間ができたことも大きな収穫となった。昔から知り合いだった友達とも再会でき、また全く知らない他大学の人たちとも新しいつながりを作ることができたことは今後の人生の中で必ずプラスに働くことだと思う。今回の交流会では学生だけでなく講師の方々ともたくさんのお話をさせていただいた。その中でも一番印象に残ったことは、あるタスクフォースの先生が薬学の知識・技術を生かして創薬とは別の道で貢献していきたいという自分の考えに対して大きな後押しをしてくれたことである。薬学部卒なら創薬の道に進むのが当たり前、そういった考えが暗黙の了解としてある薬学部の中で、自分の考えを後押ししてくれる人はこれまであまりいなかった。しかしその先生は、むしろそういう人がこれからたくさん必要になってくると思うから、ぜひその道に進んでほしいと背中を押してくれたのである。自分の目指す道は間違っていないんだと改めて思うことができ、その先生には非常に感謝している。

盛りだくさんな今回の合宿にはじめは消極的だった自分が、こんなにたくさんのもので得られるとは思ってもみなかった。今回の合宿を企画、運営して下さったすべての人に感謝したいと思う。来年参加を迷っている、もしくは渋っている後輩たちにもぜひおすすめしたい素晴らしい合宿だった。

#39

長崎大学・熊本大学・九州大学の3大学の薬学部生が集まり、勉強したり議論する合宿があるというのはかねてから聞いていた。「単位をもらえるし、他の大学のレベルが分かるし行ってみたい」というのが純粋な参加動機だった。

1日目、最初の講義の質疑応答から他大学の積極性を見せつけられることになった。いつも自分の大学では講義が終わり先生が質問はないかと聞いてもしんとしているのが当たり前。それが、他大学では普通ではないのだということを実感した。その積極性は講義にとどまらずSGDでもハキハキとした言動とリーダーシップにおののいてしまった。夜の討論会でもやはりそれは変わらず

なかった。長崎大学から来た先生に活を入れられてしまった。そのような中で「このまま終わってしまっているのだろうか、負けてしまっているのか」という気持ちが芽生えた。

2日目からは1日目の反省を活かして、講義では質問を考えながら聞くように心がけた。そうすると、いつもよりかなり内容が頭に入ってきたように思えた。そして、恥ずかしさを捨てて浅い質問でもどんどん手を上げるようにした。そうしていくうちに勢いが自分のなかでついたのか、SGDでは自然に仲間の意見や考えに積極的に自分も賛同したり再考を促したりをできるようになったと思う。

全体を振り返って思うのは、自分の大学の講義では味わえない雰囲気の中で勉強できたことがとても自分にとって積極性を高める後押しになったということだ。他大学というライバルであり高いレベルの人間と一緒にいることで自分の能力を出来る限り引き出してがんばろうと思えた。また、先生方や外部から来てくださった方々の貴重な経験談を聞くことで自分の将来についての指針の参考になった。特に他の大学の先生の意見というのは自分の大学の先生とは、また違う側面からの指摘があることもあって非常に興味深かった。来年も下級生のためにぜひ続けていただければと思う。

これからもまた研究が続いていくと思うがこれらの日に経験したことを忘れず、常に目的意識・向上意識をもって何事にもものぞんでいきたい。

#### #40

私がこの4日間の九重での合宿を通して、研究者として求められることを知ることができ、今現在それがいかに自分に足りていないかということを実感することができた。

研究者は実験することによりデータをだし、論文などで発信することのできる能力がもちろん一番求められるが、それ以外にもグループでディスカッションする際に自分の意見を言う能力や、仕事をする際の協調性などの人間性の面が強求められることを自覚した。「ディスカッションの時に意見を言わないものはいないのも同然だ。」という岩田先生の厳しい言葉は非常に印象的である。私は人前で意見を言ったり、プレゼンテーションすることが苦手でディスカッションの際には言うことが間違っていたらどうしよう、という不安から、一言二言話すだけで積極的に意見を述べるということはしてこなかった。

しかし、この合宿のスマールグループ討議で自分の意見をいう力が少し鍛えられたと感じている。各グループは10人構成で、私のグループはほぼ全員自分の意見を人前で発信することができていた。その中で自分が埋もれてはいけないと思い、一生懸命考え意見を言っていた。的外れな発言をして恥ずかしいも思いをしたこともあったが、何度も発現するうちに内容もまともなことを言えるようになっていた。

企業の方の講演はどれも自分を刺激してくれるものばかりで忙しい中講演してくださった先生、招待してくださった各大学の先生方には非常に感謝している。どの企業の先生も学生のころの積極性が高く、その姿勢が今の成功につながっているということがうかがえた。さらに驚いたのは、有機合成を専門にされている先生が生物に関する質問をされてもまるで自分が実験しているかのように専門性を交えて答えていたことである。やはり企業では自分の専門分野だけでなく他の部署との連携も大切で、ディスカッションの時に多方面の知識から討議する力が求められるということを実感した。

3泊4日の合宿は今考えても長い修行であったが得られたものはとても多かったと感じている。また、自分の弱点を認識することができた合宿であった。この経験は将来絶対に生きてくると考えている。

#### #41

正直、始まるまではびっちらしたスケジュールで先輩から話を聞いてた通りきつそうだなというのが第一印象でした。しかし、今回合宿に参加して、多くの話を聞き、グループディスカッションで他の人の考えを知り、自分の視野の狭さが分かりました。4日間を通して、これからの研究や様々な考え

方に対してすごく刺激となりました。講師の先生方の話では自分の分野に近いものではすごく理解しながら聞くことができ、自分の研究にもつながる知識を得ることができました。分野の異なる先生の話では聞きながらの理解では追いつかないことも多くありましたが、知識の幅が広がりました。質問もできなかったところは夜の飲み会の席で少し聞くことができたりして、良かったと思いました。グループディスカッションではそれぞれ違う分野で研究しているため、考え方の入りが異なっていたりして新鮮でした。それぞれが持っている知識を広げ、今の課題にはどういうことが必要なのかディスカッションして、すごく勉強にもなりました。正直、始まるまでは10人弱のグループで意見の食い違いでまとまった話し合いができるのかと心配なことが多々ありましたが、自己紹介からツッコミなどで笑いがあったり、楽しくなりそうな感じがしました。実際にディスカッションが始まると静かに考えるところはちゃんと考え、盛り上がって話すところはどんどん盛り上がっていきました。メリハリのある人が多く、しっかりディスカッションできていたと思います。宇宙の話以外にもっと個人的には面白い案もあったのですが、多数決や話の広がり方で仕方がないときもありました。また、準備の時間が足りないと考えた時も飲み会の時間ぎりぎりまでやったり、次の日の朝も自然に早くから集まったり、姿勢が前に向いていて自分もさらに刺激を受けました。夜の飲み会では先生方と講演とは違い、近い距離で講演内容の以外のお話もできて楽しい時間でした。中にはドクターまで進んでほしいとずっと口説いてくる先生もいて、悩まされました。先生方とはやはり、壁や距離を感じていましたが、飲み会でそれも少し減っていったと思います。先生の生い立ちから話す方もいて面白かったです。また、他大学の人と話していても自分の大学の誰かの友達だったり、知り合いだったり世間は狭いなとも思いました。サークルの種類が同じだったり、趣味が同じだったりと少しでも共通点があれば話が盛り上がって、共通点がなくても大学の話だったり世間話など楽しい時間でした。きつい時間もありましたが、内容は自分のためになることばかりで、合宿に参加したことで成長できたと思います。このたびは企画・運営をしていただきありがとうございました。後輩には自分を成長できる場として参加を促していきたいと思います。

## #42

### ○目的とそれに対する達成度

九重合宿における目的は施設や企業で研究に携わっている方々から先端研究について学ぶこと、そしてグループディスカッションにおいて他大学の学生と交流を図り議論を重ねることであった。これらの目的はほぼ達成できたと実感している。特にグループディスカッションでの討論は、これまで経験したことのない有意義なものであった。学術的な目的での他大学の学生との交流は、学会での懇親会といった数十分程度のものしか経験がなく、今回のように比較的長時間の議論を重ねて交流を深めることは非常に大きな刺激となった。また、討論の中でも各自に役割を割り当てられたことによって内向的な自分が役割を果たすことを通して積極的に議論の盛り上げに貢献できたと思う。

### ○討論会と交流会

討論会と交流会では学生、教員、研究者の垣根なしにさまざまな交流を楽しめた。研究の話題だけでなく、趣味や教訓のような話まで話題に上り合宿研修独特の討論会に参加できたことはよい経験になったといえる。また教員の方の普段見ない一面も垣間見え、普段より一層親近感がわいた。

### ○今後に向けて

九重合宿に参加することで得た経験、交流を深めた仲間は自分の今後に大いに役立てるべきものであり大切にしていきたい。これからの大学院での研究生活、果ては社会人として職業を全うするうえで自分を成長させるきっかけとなった九重合宿の思い出を今一度思いだし、今後の糧とすることで自らの成長ができるだろう。

## #43

最初、この合宿のスケジュールを見たとき、自主的に参加したものの、4日間もあると飽きそうだなと思った。しかし実際は、そんなことを考える暇もないほど忙しく、あっという間に最終日を迎えてしまった。合宿に行く前に携帯を充電してから行ったのだが、結局、帰るまで携帯の充電が切れることがないくらいだった。4日間過ごしてみて、とても疲れたというのが正直な感想であるが、一方でかなり刺激的な4日間であった。SGDでは、まず最初にKJ法により皆それぞれ色んな意見や案を出した。このとき出た意見や案は、なるほどと思うものや、当然出てくるであろうと予想できるもの、また、的外れなもの、突拍子のないものまで様々であった。SGDをやってみて驚いたのが、的外れだと思っていたものや、突拍子のない変わったアイデアが、話を進めるうちに、きちんとまとまったものになることがあるということだった。おそらく、自分だけで考えたり、考え方の似た周りの人だけでこのようなことをやっても、無難なアイデアにまとまると思うが、初めて会った色んな人が集まってアイデアを出すと、また違った面白いものができるのだなと思った。これは、アイデアが意味不明な悪い方向へ進んでしまうというリスクもあるかもしれないが、研究をおこなうときに、自分の領域でない全く異なる領域と交わることは、今までにないようなオリジナリティーのある研究ができるきっかけとなるのではないかと感じた。また、話し合いを進めるうえで、司会を何人かが担当したが、うまく周りを使って話し合いを進められる人と、話がまとまらずに個人がばらばらになってしまう場合があり、とても面白いと感じた。司会がうまくできる人は、全体をみており、細かいことにはあまり自分は関わらずに担当者をきめて進めていた。一方で司会がうまくできない人は自分がそれぞれの作業の細かいところまで指示し、結果的に全体がまとまらずに個人の作業となってしまった。前者の司会のやり方が正しいのかどうかはわからないが、今後自分が社会へ出てリーダーを務める際にはどうしたらいいのか考えるきっかけとなった。先端研究講義および夜の交流会では、普段関われないような様々な方とお話しする機会がありとても有意義な時間を過ごすことができた。交流会では企業の方や先生方に様々な話をさせていただいたが、講義では話すことが難しそうな内容の話や、研究に関する新しい情報などを知ることができた。このような交流会に出て、上の方と話し、情報を教えてもらうことは、自分の大学にいるだけではできないことであるので、学会などの懇親会で情報を集めたり、人とのつながりを作ることは非常に重要であると思った。この合宿で経験したことや感じたこと、気づいたことは、普段過ごしている中では絶対に得ることのできないものであると思う。今後、修士・博士と進んでいくうえで、この合宿で得たことを参考にしながら、参加していない人よりも上に行けるように努力していきたい。

#### #44

今回の九重合同合宿研修に参加するに当たって、まず初めに思っていたことは怖いなってことでした。この怖いというのは、先輩方から聞いていたお話で

- ・飲み会は毎晩で非常に激しい
- ・周りのモチベーションが高く落ち込む
- ・とにかく疲れる

このことが不安でたまりませんでした。もちろん他大学の同学年同分野の人とこんなに親密にお話できる機会なんてこれから先もほとんどないことを考えると、ワクワクする気持ちもあり、修学旅行の前の高揚感に似たものもありましたが、そのあたりの感情が相混ざって非常に不安定な気持ちでした。そんな気持ちの中で始まった研修では普段聞けない偉い方々の最先端のお話を聞き、それに対し質問の時間も足りないながらも十分にとっていただき、非常に面白いと感じたのが一日目でした。初日のSGDについては司会などやりつつ、楽しくまた真剣な話し合いができたと思います。このあたりから周りのモチベーションの高さについての不安は全くありませんでした。また夜の討論会では先生方に質問できなかった話をするのができ、また裏話のような面白い話、人生論、意識の仕方などためになる話を聞きつつ同学年の様々な人と楽しくお話ができたと思います。しかし想像よりは激しいことはなかったかなと安心しました。二日目になってくると、初日ほとんど長崎大学院生と一緒に行動していたのが、段々と班の他の大学院生と行動する



ようになりました。もっとストレスになるかと思いましたが、そうでもなかったです。それからその日の晩に非常に豪華な御飯でお腹パンパンになりながら電灯のない道をみんなでゆっくりと話しながら帰ったのも楽しく、また一匹の蛍を見つけたのも思い出です。それから最終日まで風呂返上で話し合いをし、講演を聞いて質問を考え、本当に休む間もなく常に頭が回っている状態を続けました。そして最後の日に優秀者の発表で前に並ぶ名前に自分の名前があったとき何が起きたか一瞬わかりませんでした。自分はみんなの前で発表もしていないし、質問もあまり多くなく、選ばれる理由が見当たらなかったからです。不思議な気持ちのままインタビューを受け、研修所を後にしましたが優秀者に選ばれたことは確実に僕の自信になりました。最後にこの合宿における私の不安点三つのうち二つは完全に払拭されましたが、最後の一つは想像通りで死ぬほど疲れましたが、また来てみたいと思える合宿研究であったと今は言えます。短い期間でしたがお世話になりました。

#### #45

今回、九重合宿研修に参加して、多くのことを学び、貴重な体験をすることができたと思います。私は、大分県の九重という地に訪れたのは初めてで、緑が多く、ほんのりと硫黄の匂いがする場所であるということを知りました。また、温泉卵を作るのは初めての経験であり、その上、殻をたたくとまだ全然固まっておらず、服に卵がぶっかかりました。とても珍しい体験をすることができました。

さて、他にも様々なものを得ることができました。本研修では多く発表することが求められたため、自然と質問を考えながら講演を聞くという姿勢になり、先生方の最先端の研究や貴重な経験談に対して自分なりに解釈したり、自分ならどう考えるか、またなぜこのような考えに至ることができたのかという点に意識して講演を聞くことができました。今後、授業や文献セミナーに臨む際にもこのような意識を取り入れていこうと思いました。

また、合宿のメインでもあるグループディスカッションでは、同じ課題に関して考えても、様々な分野の人間がいることでいくつかの異なる視点から話し合いが進行していくのは、とても新鮮で、面白いと感じました。さらに今回の話し合いでは、人の意見を否定してはいけないというルールがありました。Yes, but…ではなく Yes, and…にすることでしたが、正直不便だと思う場面はありました。討論時間がすごく限られていたため、個人的にはすぐに切り捨てたい提案もあったからです。しかし、Yes, and…の精神でどのアイデアも育てるように話し合いをすることで、良いプレゼンへとつなげることができた上に、チーム内の雰囲気も終始良好でありました。チームの仲が深まることは、合宿が楽しめるかどうか直結するので、この話し合いのスタイルのおかげで私は合宿自体を楽しむことができ、他大学に友人をつくることもかかないました。Yes, and…の精神はとても画期的なものであると、私は感銘を受けました。

これまで長崎大学は積極性に欠けると言われていたみたいですが、今回は最も少ない人数でも、他大学に負けないくらいアピールすることができたのではないかと思います。来年以降、後輩たちがもっともっと長崎大学を目立たせてくれたらいいなと思います。本研修を実施するにあたって、様々な事前準備や当日の運営をしてくださった三隅先生をはじめとする諸先生方や研修所の方々に、この場を借りて心より感謝申し上げたいと思います。

#### #46

今回の九重合宿研修は、非常に思い出深い貴重な体験となった。初日から早速始まったグループディスカッションでは、自分が思いつかないような意見がどんどん出てきてとても刺激的だった。はじめは皆遠慮がちで、意見も出にくいような雰囲気であったが、日を追うごとに打ち解けあい活発な議論を行うことが出来た。自分の意見をいかにわかりやすく伝えるかがとても難しく、「討論」というものの難易度の高さを思い知った。チームのプレゼンでも鋭い意見が飛んでくるなど、参加者のレベルの高さに萎縮しそうだった。

先生方の講演は自分の視野を広げこれからの学習に生かす重要な材料となった。知財の講演がすごく新鮮で興味深かった。折角貴重なご講演をしてくださる先生方に質問をする絶好の機会だったにも関わらず、一つとして質問をすることが出来なかったことが非常に悔やまれる。手を挙げても当たらないことが何度かあり、思考力や想像力ではない自己アピール力が足りないことがわかった。このことは自身の一生の戒めになりそうだ。

お酒を入れた夜の討論会も非常に楽しいものであった。他大学かつ他分野の学生の話は研究室に籠っていても聞けないものばかりであった。学生だけでなく先生方ともお話しすることができ、これからの研究活動や人生に関して改めて考えさせられた。真面目な話だけでなく、他愛のない話を和気藹々とできたことも思い出となった。

この合宿研修に参加させて頂き本当にありがとうございました。三隅先生をはじめとした諸先生方、そして合宿研修に関わった皆様に感謝申し上げます。

#47

まずは九重合宿という貴重な体験のできる機会を与えていただきありがとうございました。基本的には閉鎖的で、専門性に特化した研究室に所属しているため他大学や他の研究分野の方々と話し合うことはほとんどなく、今回得られた体験はすべてが非常に刺激的で視野が広がったように感じています。

甲斐先生をはじめとする8人の偉大な先輩方の話は最先端の技術と想像を超える努力の集大成であり、自分のいままでの怠慢さと力量不足を痛感させられました。内容を掘り下げると何ページあっても書ききれないため省略させていただきますが、論者の話だけでなく熊本大学や九州大学また、長崎大学の他研究室の質問などにも沢山の刺激を受けました。自分とは全く異なる視点からの質問、自分の知識では絶対できないような専門性に特化した質問も数多く飛び交い講義中のメモノートを書く手を休める時間はほとんどありませんでした。講義の時間中、「質問してないやつ手挙げる」と散々煽られていた生徒も夜の討論会やグループディスカッションで話をする自分の中でしっかりと考えや意見をもっており、講義の時間外も勉強でないことはありませんでした。

先に述べたグループディスカッションの時間もまた、講義とは異なる刺激を与えられました。それぞれがバラバラの研究をしており、異なる視点、感情、知識から一つの問題について真剣に考え問題点や解決法を抽出する過程は難しくもありましたが、何より楽しく、わくわくさせられる時間でもありました。メンバーは誰ももう少し時間があればと、気づけばこのディスカッションが終わるのを惜しんでいるように思っており、とりあえずの完成型のスライドを見ても「もっとよくできる」「もっと伝えやすくできる」と最後まで上を目指すメンバーの姿勢には尊敬すら感じました。自分自身、よりよくなるように意見を出したつもりでしたが力不足、勉強不足を感じずにはいられませんでした。

この研修全体を通して一番感じたの「力不足」でした。しかしこれは駄目だ駄目だ、というわけではなく研修に行くことでより向上心を持たたということです。研修に行く前は思っていなかったような、もっと研究したい、もっといろんなことを勉強したいという気持ちを持つことができたことが今回の一番の収穫であると考えています。次また、このような研修などに参加できる機会があるかどうかはわかりませんが可能ならまた他大学との交流や勉強の機会に参加したいと思います。

最後に自分が受けた刺激を、自分が与えられるように研究者として成長したい。と決意表明を書いてしめさせていただきます。すべての参加者に感謝の言葉を贈ります。このような素敵な機会を与えていただきありがとうございました。

**優秀賞取りたかったです。**

#48

九重合宿研修は、様々な点において自分を成長させたと思う。討論会で先生方や他大学の学生からの貴重な話を聞いて、研究や人生に対する考え方が変わった。先生方に話しかけることに対して、最初は抵抗があったが、勇気を出して声をかけると、予想以上に親しみやすく接していただき、非常に嬉しかった。先生方の言葉で印象に残っているのは、「質問は、自分が分からないことを解決するためにするのだから、周りから変な質問と思われようが関係ない。」という言葉である。今まで自分は、質問したいことがあっても、周りからの目を気にして、質の低い質問はしないようにしてきた。しかし、これを質問せずに放置しておくのは、自分にとってマイナスにしかならないので、今後は、質問を躊躇せず、積極的に質問していきたい。また、「最初から安定志向に走ってはいけない。人生を成功したいなら、リスクを抱えながら挑戦し、上を目指さなければならない。」という言葉にも非常に感銘を受けた。実際、自分の中には、薬剤師免許取って平穩に暮らしたいという気持ちもあったが、この言葉を聞いて、一度しかない人生を平凡なものにしたくないという気持ちになった。これからは、常に上昇志向で人生を生き抜きたい。また、「誰にでも苦手なことがあるが、その苦手を努力して克服することが必要である。」という言葉は、今まで自分が放置していた苦手なことを、どうにかしなければならぬという気持ちにさせた。先生が、社会に出てから努力して速読をマスターしたという話を聞いて、自分も、速読を修得して、仕事処理能力を向上させたいと思うようになった。英語にも、今のうちから取り組んでおかなければならないと思った。

先端研究講義や企業戦略講義では、ハイインパクトファクターの雑誌に載るような優れた研究内容を聞くことができ、非常に勉強になった。自分は、これらの講義で、質問を考えながら聞いていたが、先生方のプレゼンテーションには穴がほとんどなく、質問を捻り出すのが大変だった。しかし、ほぼ全ての講義で手を挙げ、6つの講義で3回質問をすることができた。周りの学生の積極性に驚かされると同時に、自分も負けていられないという気持ちになり、必死に質問を考え、手を挙げた。他大学の学生から大きな刺激を受け、切磋琢磨し、お互いに成長できたのではないかと思う。

スモールグループディスカッションにおいて、一日目はあまり発言することができず悔しい思いをしたため、二日目、奮起して、早朝からスライドを作り、他の班員が来る頃にはスライドをほぼ完成させていた。これがきっかけとなり、ディスカッションの中心で発言できるようになった。また、自分はSGD2で発表を担当した。多くの質問が来たが、的を射た受け答えをすることの難しさを痛感した。質問者の意図を汲み取り、適切な回答を瞬時に思い付き、それを言葉にすることは非常に難しい。質問対応を今後克服すべき課題として再認識できたことに関しては、大きな収穫だったと思う。

最後に、優秀者賞の発表で自分が選ばれた時は、大きな達成感と喜びを感じると同時にさらに向上していかなければならないという使命感も感じた。この優秀者賞に満足することなく、優れた薬学研究者になれるように努力していきたい。

この九重合宿研修を企画してくださった先生方に心から感謝の意を表します。ありがとうございました。

#### #49

今回、この合宿研修に参加して本当によかったと思っています。その理由の一つには、他大学の学生との交流があります。スモールグループディスカッションは初めてだったので、この合宿研修で経験できたことはすごく大きいです。特に一番驚いたのは熊本大学の学生のリーダーシップ力や発言力です。日頃からこのようなディスカッションをやっているからなのか、スムーズに会を進行していたり、自分の考えを迷うことなく発言していたりして、同じM1なのにどうしてこんなに自分と差ができてしまったのかと情けなくなりました。私は発言するとき、こんなこと言っても大丈夫か、見当違いな発言ではないかといつも考えてしまって不安になり、発言するのをやめることが多いなと自分で思っています。今回のディスカッションを経験して、それではだめだと痛感しました。自分の考えはたとえどんなことであれ積極的に発言していこうと思いました。それはディスカッションだけでな

く質問の場でも同じです。夜の討論会の場で斉藤先生とお話した時、質問は自分の疑問に思ったこと、分からなかったことを素直に聞けばいい。こんな質問して恥ずかしいとか全く思わなくていい。自分が分からなかったことが分かるのが大事なんだから。という言葉いただきました。本当にその通りだと思います。これからは講義などで分からないことがあれば積極的に質問しようと思います。また、夜の討論会の場での交流も非常に有意義なものでした。自分は就職するか進学するか悩んでおり、同じ境遇の同級生と話をすることでいろいろな考え方を聞くことができました。それだけでなく、他大学の同級生とつながりを持つことができたのもとてもよかったと思います。さらに、前述の斉藤先生もそうですが、先生方といろいろなお話をすることができ、自分の将来について考える上で非常に参考になることを聞けて、この合宿に来てよかったなど改めて思いました。

この合宿研修に参加して、周りから多くの刺激を受け、自分の変えなければならないところも見つけることができ、またたくさんつながりを持つことができました。この合宿研修に来なければ気づかなかったこともたくさんあります。この経験をこれからの自分に活かすとともに、後輩たちにこの合宿研修の良さを伝え、この合宿研修に参加してもらいたいと思います。



# 平成 27 年度大学院生合宿研修

## 参加 講師・教員

齊藤 貴志 (国立研究開発法人 理化学研究所)  
 高井 一也 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)  
 松下 正行 (中外製薬株式会社)  
 野村 伸彦 (富山化学工業株式会社)  
 木野山 功 (アステラス製薬株式会社)

九州大学大学院参加予定教員 5 名			
氏名	フリガナ	分野	身分
武田 知起	タケダ トモキ	分子衛生薬学分野	助教
臼井 一晃	ウスイ カズテル	薬物分子設計学分野	助教
大戸 茂弘	オオドシゲヒロ	薬剤学	教授
田畑 栄一	タバタ シゲカズ	生体分析化学分野	助教
王子田 彰夫	オウジダ アキオ	生体分析化学分野	教授
熊本大学大学院参加予定教員 10名			
氏名	フリガナ	分野	身分
甲斐 広文	カイヒロフミ	遺伝子機能応用学	教授
三隅 将吾	ミスミ ショウゴ	環境分子保健学	教授
首藤 剛	シュトウ ツヨシ	遺伝子機能応用学	准教授
副田 二三夫	ソエダフミオ	環境分子保健学	助教
岸本 直樹	キシモトナオキ	環境分子保健学	助教
小橋川 敬博	コバシガワ ヨシヒロ	生命分析化学	准教授
小谷 俊介	コタニシュンスケ	大学院先導機構創薬科学分野	准教授
稲住 知明	イナズミトモアキ	薬学生化学分野	助教
関 貴弘	セキ タカヒロ	薬物活性学	准教授
倉内 祐樹	クラウチ ユウキ	薬物活性学	助教
長崎大学大学院参加予定教員 5名			
氏名	フリガナ	分野	身分
黒田 直敬	クロダ ナオタカ	薬品分析化学	教授
岩田 修永	イワタ ノブヒサ	ゲノム創薬学	教授
田中 隆	タナカ タカシ	天然物化学	教授
淵上 剛志	フチガミ タケシ	衛生化学	准教授
齋藤 義紀	サイトウ ヨシノリ	天然物化学	准教授

\* 順不同敬称略

## 平成 27 年度大学院生合宿研修 世話人

合宿研修世話人 (熊本大学)

甲斐 広文 有馬 英俊 三隅 将吾 首藤 剛 関 貴弘 小橋川 敬博  
小谷 俊介 副田 二三夫 倉内 祐樹 稲住 知明 岸本 直樹

九州薬科学研究教育連合代表

大戸 茂弘 (九州大学大学院 学部長)

発行年月日 平成 27 年 10 月 1 日